

「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画」

2025年8月7日

南相馬市

目次

1.はじめに

- (1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的 4
- (2)基本計画サマリー 7
- (3)計画策定にあたっての前提と問いの整理 8
- (4)計画対象区域及び面積 9

2.セデッテかしまの概要

- (1)セデッテかしまの沿革 10
- (2)セデッテかしまの位置と現況 11
- (3)セデッテかしま及び南相馬鹿島SAの特徴 12
 - ①年間売上高の推移
 - ②年間利用者数の推移
 - ③連結許可による高速道路利便施設
 - ④24時間スマートインターチェンジ
 - ⑤立地優位性
 - ⑥潜在力・拡張余地
 - ⑦セデッテかしまの施設概要

3.南相馬市の概要

- (1)南相馬市の位置 16
- (2)気象条件 17
- (3)東日本大震災・原発事故の影響 18
- (4)人口減少及び人口構成の変化 19
- (5)市内産業 20
 - ①農業
 - ②漁業
 - ③林業
 - ④商業
 - ⑤製造業
 - ⑥観光
- (6)交通 25
- (7)情報発信の状況 26
- (8)ハザードマップ 27
- (9)市の資産 29
 - ①野馬追・馬文化のまち
 - ②ロボットのまち
 - ③宇宙産業・ロケットのまち
 - ④サーフィンのまち
 - ⑤恐竜のまち
 - ⑥こども達の笑顔がかがやくまち
 - ⑦移住者・チャレンジャーのまち
- (10)周辺地域を含む地域資源 32

4.関連・上位計画の状況

- (1)南相馬市第三次総合計画 37
- (2)南相馬市第三次国土利用計画 38
- (3)南相馬市都市計画マスタープラン 39
- (4)南相馬市地域防災計画 41
- (5)観光立国推進基本計画（第4次） 42
- (6)福島浜通り地域等15市町村の交流人口拡大に向けたアクションプラン . . . 43
- (7)「第2期復興・創生期間」以降の東日本大震災からの復興の
基本方針の見直しに向けた主な課題等 45

5.サウンディング調査等の整理

- (1)サウンディング等の取組 47
 - ①基本計画策定作業の前段でのサウンディング等の取組
・事業構想大学院南相馬市プロジェクト研究
・サウンディング型市場調査
 - ②基本計画策定作業の後段でのサウンディング等の取組
・事業者等サウンディング
・南相馬鹿島サービスエリア周辺開発検討委員会
・仙台圏の子どもの遊び場調査

6.サービスエリア集客見込み 50

7.事業コンセプト

- (1)「伝えたくなる」がたくさんあるSA 52
- (2)一緒に育てるSA 53
- (3)まちをつくるSA 54

8.想定される事業内容

- (1)施設イメージ 56
 - ①鳥瞰パース
 - ②アイレベルパース
- (2)導入施設規模 58
 - ①導入施設の選定方針
 - ②導入施設規模の算定基準
 - ③導入施設の検討
 - ④導入施設規模の算定
- (3)施設の配置検討 68
 - ①施設配置の考え方
 - ②施設の配置図（案）
 - ③開発の空間イメージ

目次

(4)施設・コンテンツの考え方	75	15.事例調査	
①飲食コンテンツ		SA・PA	
②宿泊・温浴コンテンツ		(1)鈴鹿PA	111
③物販コンテンツ		(2)川口ハイウェイオアシス	112
④野馬追・馬文化伝承施設		(3)EXPASA多賀	113
⑤花見山		(4)刈谷ハイウェイオアシス	114
(5)その他	80	(5)川島PA	115
①道の駅		道の駅	
②高速道路等の課題解決		(6)函南「道の駅・川の駅」	116
③開発余地		(7)川場田園プラザ	117
9.建設・管理手法の検討		(8)道の駅 常総	118
(1)用語解説	84	(9)道の駅 KOKOくろべ	119
(2)建設主体とその建設方法	85	(10)都市交流施設・道の駅 保田	120
(3)建設・管理運営手法の検討	86	(11)道の駅 ましこ	121
(4)管理運営体制の方向性	88	商業施設	
10.導入財源の検討		(12)VISON	122
(1)国庫補助・その他補助	89	(13)ラコリーナ	123
(2)合併特例債	96	(14)KADODE OOIGAWA	124
(3)企業版ふるさと納税	97	公園	
(4)ふるさと融資制度	98	(15)ソレイユの丘	125
(5)自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金 (地域経済効果立地支援事業)	99	(16)鞍ヶ池公園ミライプロジェクト	127
11.民間企業の参画の可能性に関する考察		文化施設	
(1)官民共創への意向等について	100	(17)ウポポイ 民族共生象徴空間	128
(2)類似事例	102	(18)松本市立博物館	129
12.収支計画のシミュレーション	104	(19)宮城県慶長使節船ミュージアム (サン・ファン館)	130
13.スケジュール	109	まちづくり	
14.今後の検討課題	110	(20)女川まちづくり	131
		(21)株式会社あわえ	133
		(22)株式会社オガール	134
		(23)北九州家守舎	135
		(24)札幌大通まちづくり株式会社	136
		(25)株式会社SHONAI	138
		海外事例	
		公園	
		(26) Moment Factory (カナダ)	140
		商業施設	
		(27) Babylonstoren (南アフリカ)	141
		まちづくり	
		(28) Great Smoky Arts & Crafts Community (米国テネシー州)	142

1. はじめに

(1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的

【セデッテかしまのこれまでの経緯】

常磐自動車道南相馬鹿島サービスエリアの利活用拠点施設として市が整備した「セデッテかしま」は、合併前の旧鹿島町が平成13年度に「常磐自動車道鹿島SA地域拠点整備事業基本計画」を策定し、地域の特色を活かしながら地域の活性化等を目指す事業の拠点となるコア施設（現セデッテかしま）に加え、周辺エリアに野外活動施設としてスポーツやレクリエーション、体験農園などの整備を想定した「大規模な広域レクリエーション開発」として検討を進め、平成16年度に策定した「新市建設計画」においても、魅力ある観光のまちづくりの主要事業として位置づけました。

その後、平成21年度に策定した「南相馬市SA利活用拠点整備事業基本計画」では、社会情勢の変動や想定利用者数（年間53万人）を鑑みた「コンパクトな地場産業振興拠点」として現実的な開発から行い、高速道路の全線開通後、観光交流の視点・地域資源の情報発信などの基本的なコンセプトは引き継いだ上で、開発を再構築するとした経緯があります。

【セデッテかしまの現状】

平成27年に供用開始となったセデッテかしまは、オープン以来年間平均100万人以上の利用者数を維持し、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一時利用者数が減少したものの、令和5年度にはこれまでで最多となる年間150.9万人を記録しました。また、現在要望中の常磐自動車道の全線4車線化が実現すれば、更なる利用者数の増加が期待できます。

このことから、今般、当初想定約3倍の年間利用者数となり、施設のスペース不足やチャンスロスも発生しているセデッテかしまについては、既存施設の規模や在り方、更には、地域の魅力の向上や地域課題の解決の拠点となるようその周辺エリアの開発検討を行う機会であると考えられます。

1. はじめに

(1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的

【南相馬市の現状と課題】

- ・本市は、平成23年3月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故により甚大な被害を受け、その結果、市内人口は震災前と比較して4分の1以上減少（（H23）71,561人⇒（R6）53,102人）し、高齢化率は12.0ポイント上昇（（H23）25.9%⇒（R6）37.9%）していることから、市の活力が大きく減少しています。その結果として、『地域の担い手不足』や『街なかの活力不足』が浮き彫りとなっていることから、一層の地域活性化への取組が必要です。
- ・本市は、美しい自然や豊かな文化・伝統行事など多くの魅力ある地域資源を有している一方で、県内の他の地域と比べて認知度や関心度が低いことから、その魅力や価値をより広く多くの方へ伝える効果的な情報発信を行い、更なる通年観光の推進や交流人口の拡大への取組が必要です。
- ・市民からは『自慢できる場所・行きたい場所・連れていきたい場所がない』という声が多く挙げられていることから、愛着や誇りを育めるような場所の創出を促進する取組が必要です。

【周辺開発の目的】

セデッテかしまの優れた集客力を最大限に活かし、市内の地域活動や経済に波及させることによりまちを元気にすることで、市の課題解決に繋げることが、周辺開発の目的です。

本市は、地域の担い手確保、まちなかの活力再生、地域資源の情報発信強化、地域伝統の継承、市民の地域に対する愛着や誇りの醸成など様々な課題を抱えており、本開発ではこれらの課題を解決しながら、地域を活性化する核となる拠点の再構築を行うものです。

また、本開発によって、本市の産業が今後もサービスを維持し多様性を確保していくために必要となる、持続的なビジネスチャンスを生むとともに、新たな雇用を創出する場にもなり、UターンやIターンの促進にも資するものと考えます。

年間利用者数250万人を見込む新施設は、地域の魅力の向上、地域の課題解決の拠点となるだけでなく、大きな経済効果、雇用の創出にも資するとともに、現在のセデッテかしまが抱えるスペース不足、チャンスロスの解消にも繋がり、将来の南相馬市にとって有意義な開発になると考えています。

なお、まちを元気にするためには、市内への大きな経済効果や雇用の創出をもたらす必要があることから、本開発を進めるに当たっては、地元事業者の参画が必要不可欠であると考えています。

1. はじめに

(1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的

【官民連携手法の検討】

今回の開発を進めるにあたっては、事業コンセプトの実現可能性を高めるため、民間事業者の資金及びノウハウを最大限活用する「官民連携手法」により実施したいと考えています。

官民連携手法とは、公共施設等の建設・維持管理・運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、行政における資金の効率的使用や業務の効率化等を図るものです。収益が見込める環境を設定することで、市が整備し管理を民間に委託する従来の手法よりも市の負担が大幅に軽減できるものと考えています。

また、民間事業者との連携により経営ノウハウを取り入れて計画を進めることができるため、行政単体での計画実施と比べ利用者ニーズの把握や経営観念を活かすことが可能であり、新たな事業領域や事業手法が生み出されていくことも期待され、計画目的の実現可能性が高まると考えます。

このことから、官民連携手法の実現に向け民間事業者の参画を促進するべく、本計画における官と民の役割を示すとともに民との円滑な対話を進めるため、事業費や収支計画までをシミュレーションした本計画を策定したものです。

【本計画における「施設・コンテンツ」などの位置づけ】

本計画で示している「施設・コンテンツ」は、「事業コンセプト」を実現するために現時点で想定される開発内容を一旦整理したものです。また「建設・管理手法の検討」「収支計画のシミュレーション」「スケジュール」についても、一旦整理した「施設・コンテンツ」を建設・運営した場合に、現時点で想定されうる条件を考慮しシミュレーションしたものであり、実際の開発内容については、整理した内容を基に、公募による民間事業者の提案を受け最終的に決定いたします。

今後、民間事業者の提案を受けるにあたり、詳細な「建設・管理手法」及び「収支計画」の策定、連携する適切な民間事業者の選定や民間事業者とのリスク分担方法の取り決め、事業コンセプトの達成状況について審査するモニタリングのあり方について詳細に決定していく必要があることから、これらの業務を支援していただく「PPPアドバイザー業務」をコンサルティング会社に依頼し、民間事業者の提案を受けるにあたって必要となる公募資料の作成等の業務を進めていく予定です。

1. はじめに

(2)基本計画サマリー

①民間活力の最大限の活用を想定

- ・事業コンセプトの実現のため、民間事業者の資金及びノウハウを最大限活用する官民連携手法により実施。
- ・収益部分については民間事業者、公共部分については市による費用負担を想定。
- ・民間側の初期投資額を60億円程度と想定、市側の初期投資額を36億円程度と想定。
- ・開発エリア全体の標準年の年間売上を33億円、民間側の営業利益率を9.6%程度と試算。
- ・市側の負担は補助金や地方債の活用、民間側からの利用料収入などにより、試算全体で実質的な負担なし（※20年で2億円程度のプラス）と試算。
- ・契約内容やコンセッション方式の検討により、市側にさらに利益を残せる可能性あり。

②サービスエリアの強みを生かし、集客力の更なる向上を目指す

- ・従来有する立地的な優位性にエリアとしての魅力を付加することにより、年間利用者数が現状値の150万人から250万人に増加すると試算。
- ・常磐道の全線4車線化が実現した場合の利用者数の増は見込んでいない。
- ・利用者の増加に備えて、駐車場や追加施設等の開発余地を確保。
- ・導入コンテンツについては、物販施設、飲食施設、宿泊・温浴施設、自然体験施設、野馬追伝承施設、花見山など事業コンセプトの実現に資する施設の整備を想定。

③SAの価値、魅力を高めるとともに地域に波及させる、新たな概念と方策の提示

【事業コンセプト】

- ・「伝えたくなる」がたくさんあるSA <期待値を超える>
- ・一緒に育てるSA <参加×クリエイティブ>
- ・まちをつくるSA <価値のリレーと循環>

④既存施設や現在の特徴を踏まえたランドスケープ

- ・現在のスマートインターの出口、入口の間口が狭いという課題については、施設や駐車場の配置の工夫などにより解消。
- ・既存施設との一体感を意識しつつ、商業的価値を高められるよう調整。
- ・コミュニティひろばやウッドデッキ、トイレの充実など外部からの評価が高い「しっかりと休憩できる空間づくり」を踏襲。

1. はじめに

(3)計画策定にあたっての前提と問いの整理

【前提】

- ・南相馬鹿島SAは、市が商業施設を整備し、物販や飲食店舗等を運営するという全国的にも稀な事例である。
- ・再開発にあたり直接参考となる先行事例がない為、ハイウェイオアシス、道の駅、大規模公園、民間観光・商業施設、まちづくり会社、地域商社、ホテル、温浴施設等を海外事例を含めて調査。
- ・調査を進めて行く中で、民間事業者からは好反応や参画への期待を寄せられている。
- ・既存施設であるセデッテかしまやスマートインターチェンジと連続した、拡張型の開発である。

【問い】

- ・民が持つリソースやノウハウ、資金を最大限活用しながら、官民共創により、SA・まち・地域を元気にできないか。
- ・SAのポテンシャルを活かし、地域に対するSAの可能性を拡張する方策を見つけることができないか。
- ・新エリアと既存施設との関係性について、一体感を出しつつ、商業的価値を失わないような調整をいかに図るか。

※南相馬鹿島SAはネクスコ東日本が運営する本体部分(高速道路駐車場、トイレ、ガソリンスタンド)と、市が運営する、連結許可による利便施設(セデッテかしま、一般道駐車場)で構成されている。今回の再開発の大半は連結許可による利便施設部分ではあるが、本報告書では説明の便宜上、再開発の対象を「南相馬鹿島SA」又は「SA」と表現する。

1. はじめに

(4)計画対象区域及び面積

- 所在地：福島県南相馬市鹿島区浮田字榎木沢地内ほか
- 用地面積：約20ha ※全域の使用を必須とするものではない。
- 都市計画等による制限：特になし
- 現況：山林（ほぼ全域が民有地）
- 特記事項：一部共有地有



2.セデッテかしまの概要

(1)セデッテかしまの沿革

サービスエリア利活用拠点施設(セデッテかしま)

供用開始時期：2015年4月25日

運営主体：南相馬市（指定管理者：株式会社野馬追の里）

位置：東京から約290km、仙台市から約70km、いわき市から約80km

主要施設：
・食堂
・物販施設
・コミュニティ広場
・テナントエリア
・屋外遊び場
・ドッグラン

年間利用者数：150.9万人（2023年度）

出典：株式会社野馬追の里株主総会資料



出典：H26/4/22 鹿島区地域協議会資料

設置理念：高速道路利用者に安全と安らぎの場を提供するとともに、高速道路利用者と地域の人々との交流の場を創出し、地域の活性化に資する。
また、本市の物産や観光文化などの地域資源、さらに復興の状況など、さまざまな情報を発信することで、地場製品の消費拡大を図るとともに、新たな人と物の流れをつくることにより交流人口の拡大を図る。

今後の開発：部分的に2車線であった道路が今後、4車線となることで、さらなる利用者の増加と地域経済への波及効果が期待される。

セデッテかしまは、開業以来、県内有数の観光入込客数を誇る施設である一方、開発当時の設置理念に掲げた情報発信、消費拡大、交流人口の拡大等については、改善の余地がある。

福島県内観光客入込客数の多い観光地

（単位：人、％）

順位	施設等名	市町村	R5年計	R4年計	伸び率
1	磐梯高原	北塩原村	1,651,508	1,620,160	1.9
2	道の駅ふくしま	福島市	1,588,539	1,398,266	13.6
3	道の駅国見あつかりの郷	国見町	1,503,000	1,370,343	9.7
4	道の駅伊達の郷りょうぜん	伊達市	1,454,163	1,401,870	3.7
5	あづま総合運動公園	福島市	1,380,463	1,424,807	△3.1
6	いわき・ら・ミュウ	いわき市	1,375,300	1,254,400	9.6
7	セデッテかしま	南相馬市	1,274,547	1,075,898	18.5
8	スパリゾートハワイアンズ	いわき市	1,265,520	948,159	33.5
9	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	湯川村	1,155,936	1,094,631	5.6
10	伊佐須美神社	会津美里町	1,109,717	1,064,271	4.3

南相馬市内観光地等の入込客数の状況

（単位：人、％）

施設等名	R5年計	R4年計	伸び率
セデッテかしま	1,274,547	1,075,898	18.5
道の駅南相馬	270,521	287,467	△5.9
相馬野馬追	121,400	103,400	17.4
新田川はらまちユッサ	60,541	58,421	3.6
パークゴルフ場	59,394	-	-
鹿島カントリークラブ	29,813	33,641	△11.4
野馬追通り銘醸館	25,091	24,529	2.3
北泉海水浴場	22,800	27,084	△15.8

出典：福島県観光客入込状況（令和5年分）

2.セデッテかしまの概要

(2)セデッテかしまの位置と現況

立地

セデッテかしまは、南相馬市鹿島区にある常磐自動車道の南相馬鹿島SAに隣接した高速道路利便施設である。

主要都市からの所要時間は以下の通りである。



	経路	時間
東京	常磐自動車道	約3時間10分
仙台	仙台東部道路―常磐自動車道	約1時間10分
新潟	磐越自動車道―常磐自動車道	約4時間
水戸	常磐自動車道	約2時間
山形	山形自動車道―東北自動車道―仙台南部道路―仙台東部道路―常磐自動車道	約1時間50分



セデッテかしまは、市が設置した高速道路利便施設であるため、一般道路からの施設利用も可能な施設である。
周辺の道路環境は左の図となる。

現況

南相馬鹿島SAは上り車線、下り車線双方から利用できる「集約型サービスエリア」である。SA内の施設としては、トイレ、ガソリスタンド、EV充電スタンドなどがある。

セデッテかしまの主要施設は、(3)セデッテかしま及び南相馬鹿島SAの特徴、⑦セデッテかしまの施設概要に記載するが、飲食・物販・休憩機能などがあり、週末や長期休暇などピーク時には駐車が困難になるほどの賑わいとなる。



施設規模	①敷地面積：14,000 ㎡	②延床面積：1,348 ㎡
全体事業費	1,480,000 千円	
R5年度売上高	990,292 千円	
R5年度利用者数	1,509,294 人	
R5年度雇用人数	41名	

(R5年度 株式会社 野馬追の里 事業報告書より作成)

2.セッテかしまの概要

(3)セッテかしま及び南相馬鹿島SAの特徴

① 年間売上高の推移

オープン後、順調に増加していた年間売上高は、4年目の平成30（2018）年度に9億円を超え、令和5（2023）年度には10.7億円となった。昼食時間帯など、混雑時には食堂が満席で利用できない状況も発生、5月の連休や夏休みには本線まで車が渋滞することもある。施設や駐車場不足によるチャンスロスが発生している。

年間売上高（単位:億円、税込）

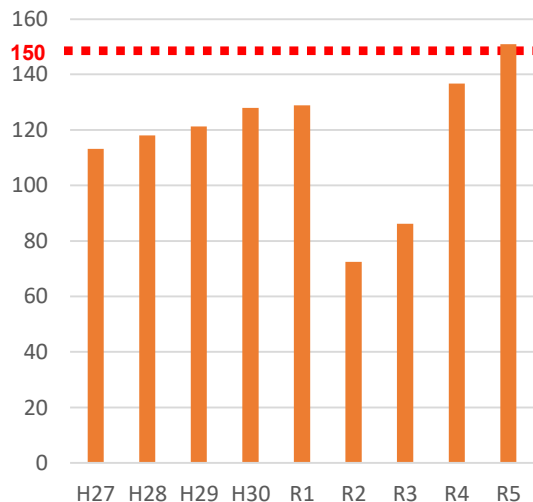
平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
7.6	8.3	8.9	9.4	9.2
令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
5.6	6.6	9.0	10.7	

② 年間利用者数の推移

オープン時の想定で53万人であった年間利用者数は、コロナ禍を除き平成28（2016）年度より120～130万人程度で推移し、令和5（2023）年度に150万人を超えた。また、6年連続で「プロが選ぶ観光・食事・土産物施設100選」に選出されるなどプロからも評価が高い施設になっているが、施設規模的にこれ以上の伸びや地域経済等への貢献は難しい状況。

一方で、6年連続選出の要因は、トイレ清掃の徹底やコミュニティひろばの充実など、利用者の居心地のよさを追求した結果によるものであり、開発後のエリアにおいてもこの精神は継承したい。

年間利用者数（単位:万人）

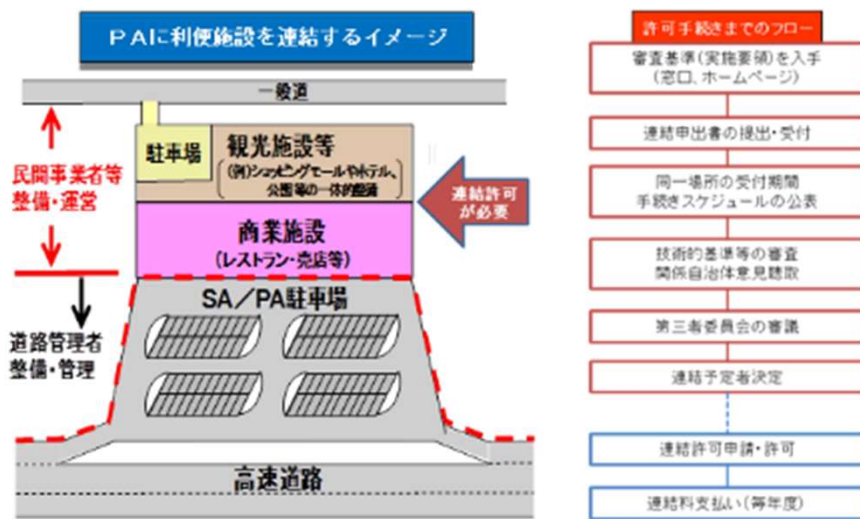


受賞
「プロが選ぶ観光・食事・土産物施設100選」

③ 連結許可による高速道路利便施設

セッテかしまは、高速道路利便施設であり、SA隣接地で自治体が運営している休憩施設（食堂・物販施設）としては、国内唯一の施設である。PAに隣接しているものや今後予定されているものを含めても極めて珍しい場所である。一般道からの利用も可能である。

高速道路利便施設のイメージ図



出典：国土交通省HP

自治体が連結者である高速道路利便施設一覧

連結者	連結位置	許可年月
南相馬市(福島県)	南相馬鹿島SA	平成27年2月
富士川町(山梨県)	増穂PA	平成29年3月
川南町(宮崎県)	川南PA	令和 2年2月
掛川市(静岡県)	(仮称)掛川第2PA	申請中

2.セデッテかしまの概要

(3)セデッテかしま及び南相馬鹿島SAの特徴

④ 24時間スマートインターチェンジ

令和4（2022）年4月29日6時から南相馬鹿島スマートインターチェンジは、24時間の利用が可能となっており、いつでも一般道との乗り降りが可能。スマートインターチェンジは全てのSAやPAに設置されているわけではなく、周辺のSAでも国見SAや安達太良SA、中郷SAでは設置されていない。高速道路、SAが直接地域とつながっており、有意義に活用したい特徴のひとつ。利用車種や車体延長の制限があるスマートインターチェンジが一定数ある中で、制限がないのも南相馬鹿島スマートインターチェンジの特徴。



⑤ 立地優位性

南相馬鹿島SAは、その立地にも特長がある。高速道路におけるガソリンスタンド、休憩施設の空白地帯に立地している。（ガソリンスタンドは120.9km、休憩施設は50.3km離れている。）

高速道路におけるガソリンスタンドの離隔が120km以上の区間

順位	道路名	区間	距離
1	舞鶴若狭道-北陸道	西紀SA～南条SA	162.9km
2	東九州道-大分道	今川PA～山田SA	149.2km
3	神淡鳴道-徳島道	淡路SA～吉野川SA	149.1km
4	秋田道	錦秋湖SA～八竜IC	144.7km
5	松山道-高知道	石鎚山SA→須崎東IC	142.1km
6	道央道	大沼公園IC～有珠山SA	141.7km
7	山陽道-瀬戸中央道-高松道	福山SA～津田の松原SA	134.9km
8	後志道-札幌道-道央道	余市IC～砂川SA	132.9km
9	東名高速-東海環状道-中央道	浜名湖SA～恵那峡SA	130.0km
10	道央道-道東道	有珠山SA～由仁PA	129.7km
11	常磐道	中郷SA～南相馬鹿島SA	120.9km

高速道路における休憩施設の離隔が50km以上の区間

順位	道路名	区間	距離	通過時間
1	圏央道(外)	菖蒲PA→江戸崎PA	75.9km	65分
2	道東道	占冠PA～十勝平原SA	58.6km	50分
3	道東道	由仁PA～占冠PA	50.7km	43分
4	常磐道	ならはPA～南相馬鹿島SA	50.3km	43分
5	圏央道	厚木PA～狭山PA	50.1km	38分

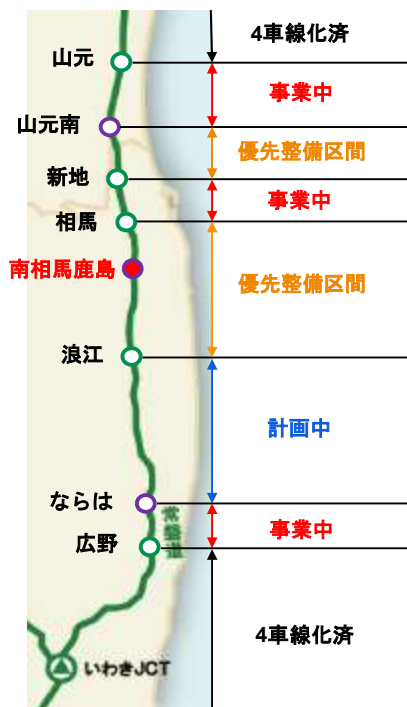
2.セデッテかしまの概要

(3)セデッテかしま及び南相馬鹿島SAの特徴

⑥ 潜在力・拡張余地

常磐道については暫定2車線区間について4車線化工事が進んでおり、震災・原発事故からの復興・創生に貢献している。また、工事の進行により交通量の増加も期待できることから、県をあげて、地域をあげて早期の4車線化を要望している。常磐道は東北道に比べても東京－仙台間の距離、線形、天候等において優位性があり、路線としての潜在力がある。

常磐道全線4車線化への現状



常磐道、磐越道の早期4車線化を 5団体大会・要望で内堀福島県知事

投稿日: 2024/08/25 作成者: adminzenkousoku



「常磐自動車道、東北中央自動車道、東北横断自動車道いわき新堀建設促進協議会合同大会」が7月30日、東京・千代田の建設会館で開催された。地域住民の生命を守る「命の道」であり、コロナ禍で激化した地域経済の復興を支える常磐道、磐越道の早期4車線化やスマートIC整備等による機能強化、相互連携が実現した東北中央道の利便性向上に向けたアクセス道路整備に対する切迫的な支援を求める大会決議を満場一致で採決した。

合同大会は常磐自動車道建設促進協議会、東北横断自動車道建設促進協議会、磐越自動車道建設促進協議会、福島県東北中央自動車道建設促進協議会、福島県東北横断自動車道建設促進協議会が主催。会場には出席関係者のほか、県民に地元自治体関係者や国土交通省、NEXCOの東北など関係機関からも多数駆けつけ、総勢70人が集まった。

冒頭、主催者を代表して登壇した内堀知事は「先日、山形、秋田県を中心とした大規模な大雨により甚大な被害が発生するなど、近年、自然災害が頻発・激甚化している。今年1月の地震を基盤では、災害時における代替道路の確保など、災害に強い高速道路の重要性を改めて認識させられた」と挨拶。「常磐道、磐越道は秋田として暫定2車線区間が残っている。高速道路本数が減るべき安全性、信頼性の確保のため不可欠な4車線化の実現を関係機関に強く求めていく」と決意を語った。



大会では東部道を代表して選挙運動対策協議会、東北中央道を代表して磐城野田伊達市議会議員、磐越道を代表して清川市議会議員が挨拶。内堀知事は「常磐道、東北中央道、磐越道の3高速道路は東北中央道災害からの復興、再生、さらには地域経済の振興、災害時の代替を確保に欠かせることができない。特に常磐道、磐越道の機能強化は早急におこないたい」と訴えた。

この日政府は「必要性は十分に認識している。必要に応じてスマートICも整備、しっかりと進めていく」と応じ、要請の主旨に理解を示した。

出典：全国高速道路建設協議会HP

東京-仙台間の高速道路比較

	距離	急カーブ	急勾配	年間降雪量 (福島県区間)	年間降雪量 (宮城県区間)
東北道	332km	11ヶ所	7ヶ所	65cm	187cm
常磐道	320km	0ヶ所	1ヶ所	37cm	51cm

また、南相馬鹿島SA周辺は隣接地に拡張余地があることも特徴。



2.セデッテかしまの概要

(3)セデッテかしま及び南相馬鹿島SAの特徴

⑦セデッテかしまの施設概要

セデッテかしまは、南相馬市はもとより相双地方の物産、観光及び伝統文化など多様な地域情報の発信を行い、高速道路利用者と地域住民の交流機会を創出するとともに、地域産業の振興及び地域の活性化を図る施設。

施設のオープン以来、同施設の指定管理者を務める株式会社野馬追の里は、物販機能や飲食機能の充実のほか、トイレを清潔に保ったり、敷地内のゴミ拾いを入念に行うなど、ドライバーが休憩場所として快適に過ごすための環境づくりに日々努めている。

○セデッテかしまの主要施設

【エントランスホール】

勇壮な相馬野馬追の騎馬武者（原寸大）がお出迎え。壁面には、モニターによる相馬野馬追祭の映像を放映するほか、写真、絵画、切絵を展示。



【お土産処『南相馬商店』】

地域の新鮮な野菜、お菓子や民芸品を販売。福島県内や近県のお土産も購入可能。



【お食事処『はらまち』】

温もりを感じる開放的な空間で、食事が楽しめる。屋外デッキでも食事可能。



【コミュニティひろば】

運転の疲れをいやす空間。乗務員の休憩室も設置。

【テイクアウト店舗】

地元自慢の店舗が軒を連ねる。



【トイレ】

清潔でリラックスできる空間。



【ボールトランポリン】

子どもたちのドライブ中のストレス解消、気分転換に。



【ドッグラン】

愛犬がのびのび遊べる場。ウッドチップ敷きで、小型犬用と中・大型犬用に仕切られている。

3.南相馬市の概要

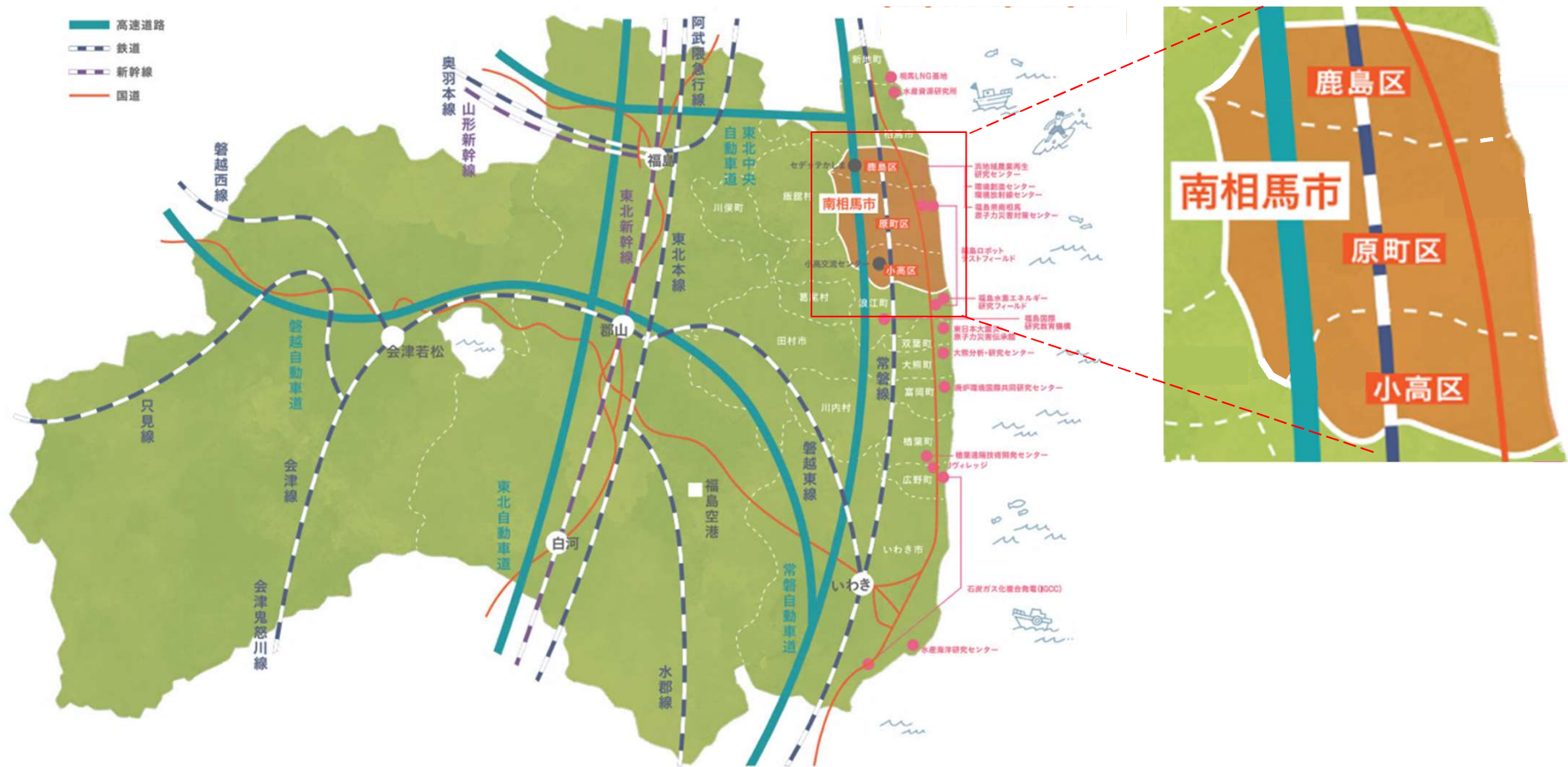
(1)南相馬市の位置

南相馬市は福島県浜通り地方の北部に位置し、東部には太平洋が広がり、西部には阿武隈高地が連なっており、山や川、海などの豊かな自然に囲まれた地勢である。東京からの距離は約290kmで、いわき市と宮城県仙台市のほぼ中間地点にある。

主要な交通路としては、南北方向に首都圏・いわき方面と仙台方面を結ぶ常磐自動車道や国道6号、県道相馬浪江線、県道浪江鹿島線、JR常磐線などがあり、東西方向には県と福島市などと連絡する東北中央自動車道や県道原町川俣線などがある。

また、真野川、新田川、太田川、小高川などが東へ流れ、太平洋へ注いでいる。

夏季は比較的涼しく、冬季は降雪が少ない穏やかな気候である。

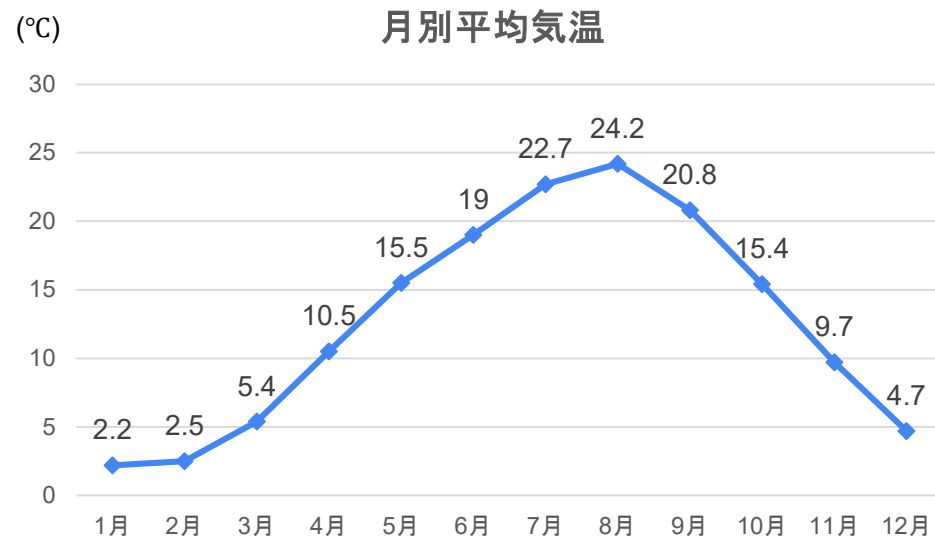


出典：南相馬市第三次総合計画

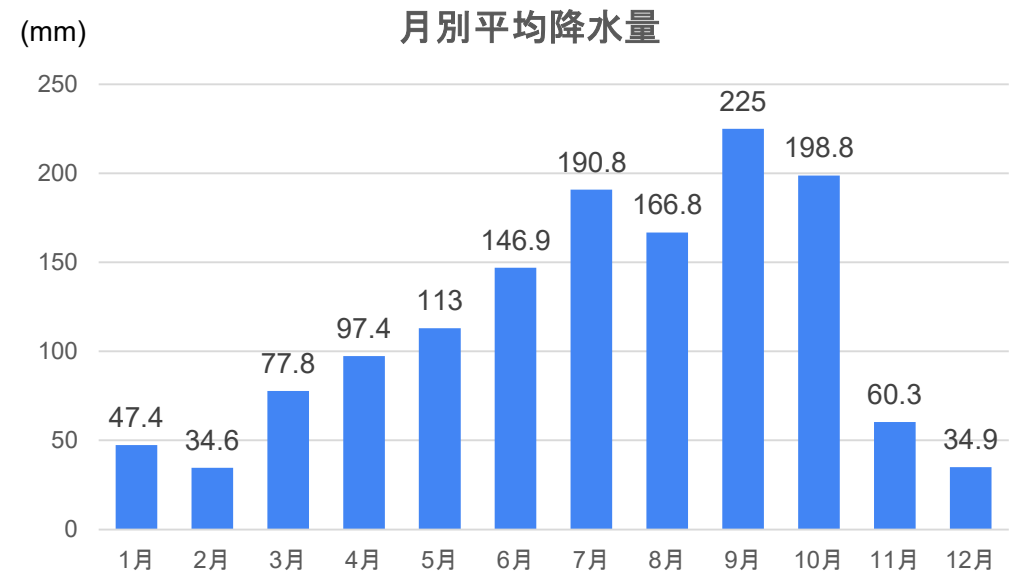
3.南相馬市の概要

(2)気象条件

南相馬市は、太平洋岸式気候域の三陸地方気候区に属している。夏季は涼しく、比較的日照時間が少ない。冬季は晴天が続き比較的暖かい。東北地方としては降雪量が少なく、北西季節風が多く乾燥した気候となる。4～7月にかけて親潮の影響を受けたことによるヤマセ（北東風）が吹く年がある。



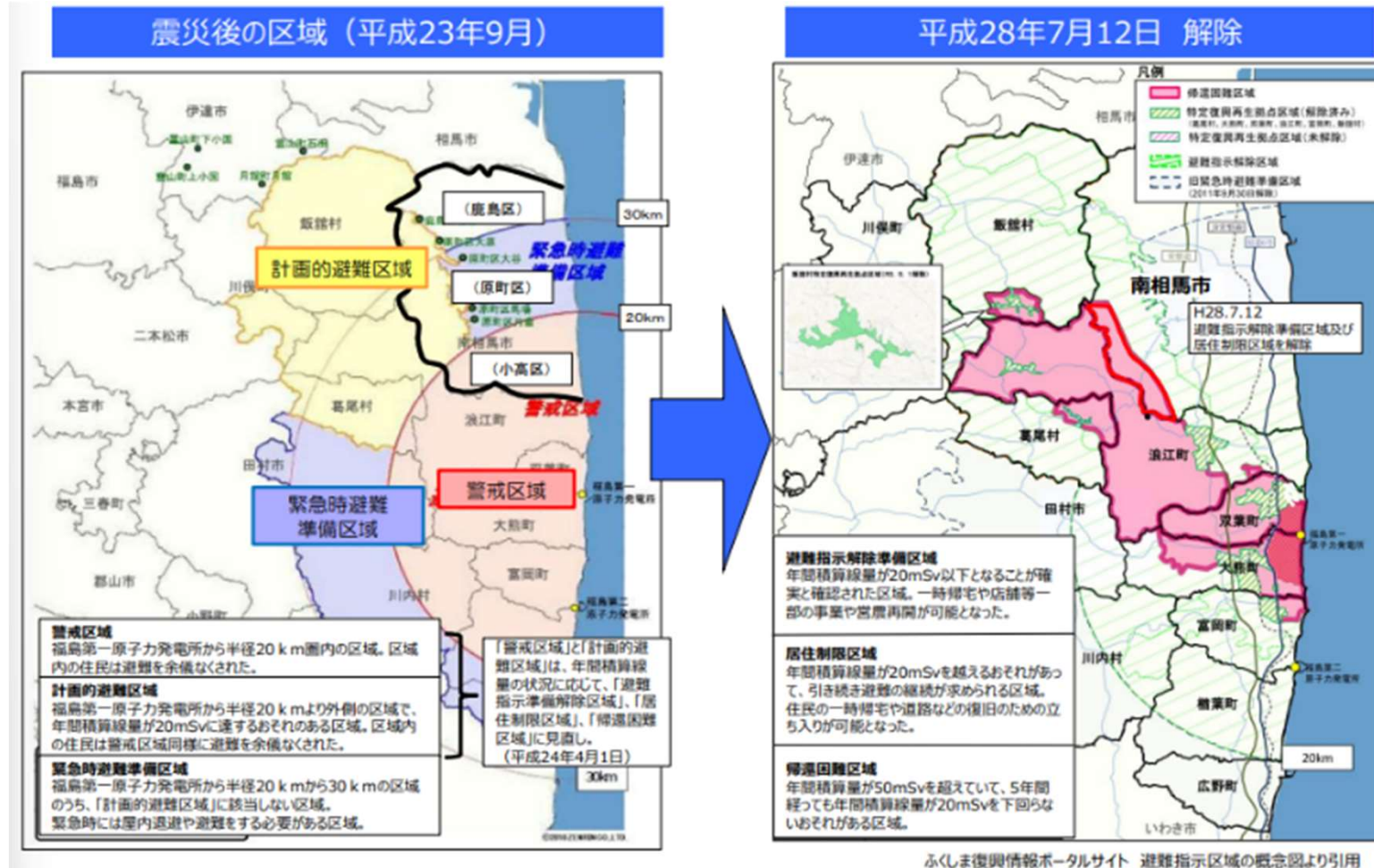
気象庁の観測地点（福島県相馬）の1991～2020年の平均気温を基に作成



気象庁の観測地点（福島県相馬）の1991～2020年の平均降水量を基に作成

3.南相馬市の概要

(3)東日本大震災・原発事故の影響



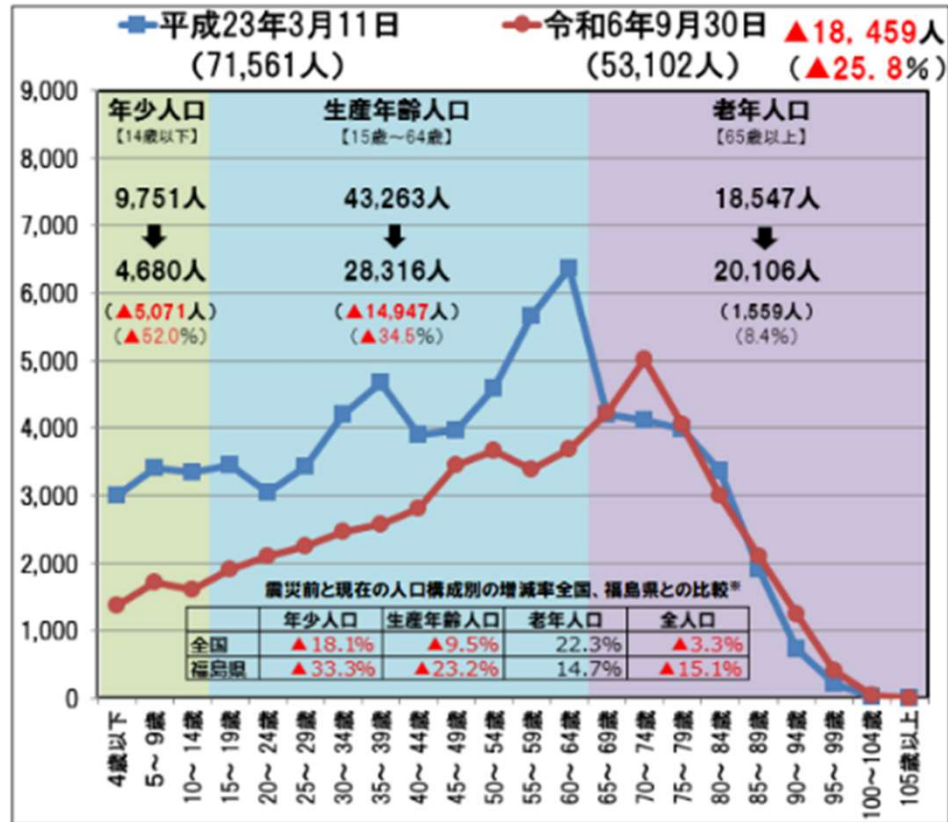
- ・南相馬市は、平成18年1月1日に旧小高町、旧鹿島町、旧原町市の1市2町が合併して誕生。
- ・平成23年3月11日に発生した東日本大震災に端を発する東京電力福島第一原子力発電所事故後、原発から半径20km、30kmの範囲で国が避難指示区域を指定。20km圏内、30km圏内外で原子力損害賠償等の対応に格差が発生。
- ・国が指定した線引きが、ほぼ合併前の旧市町の範囲と一致したことから、特に震災後の一体感の醸成が難しくなっている状況。
- ・合併当初より商工会議所や商工会、観光協会も各区にそれぞれ設置されている状況が継続中。

南相馬市の地域自治区境界と震災後の20km/30km避難区域境界が重なり、避難指示解除時期や復興支援策・補助金など、地域自治区間で差が生じている。

3.南相馬市の概要

(4)人口減少及び人口構成の変化

総人口の減少及び人口構成の変化



(出典：南相馬市の現況と発展に向けた取組)

人口5～6万人で女性人口が男性人口を下回る市区(単位:人)

都道府県名	市区名	総人口	男性人口	女性人口	女性-男性
福島県	南相馬市	59,005	31,015	27,990	-3,025
茨城県	結城市	50,645	25,441	25,204	-237
茨城県	坂東市	52,265	26,593	25,672	-921
千葉県	東金市	58,219	29,251	28,968	-283
石川県	野々市市	57,238	29,550	27,688	-1,862
長野県	茅野市	56,400	28,241	28,159	-82
静岡県	裾野市	50,911	25,773	25,138	-635
静岡県	湖西市	57,885	29,625	28,260	-1,365
愛知県	田原市	59,360	30,138	29,222	-916
滋賀県	湖南市	54,460	28,168	26,292	-1,876
島根県	浜田市	54,592	27,298	27,294	-4
沖縄県	宮古島市	52,931	26,481	26,450	-31

(出典：令和2年国勢調査)

南相馬市の人口減少率が全国及び福島県平均を大きく上回る主な要因は、**東日本大震災と福島第一原発事故の影響がある**と考えられる。避難指示や放射線への不安から、多くの住民が市外へ移住し、**特に若年層の帰還が進んでいない**。震災前からの若年層の都市部流出傾向が加速し、**出産や育児環境への不安**も定住を妨げている。

また、**震災による産業への打撃**により、生産年齢人口の流出が続いている。さらに、**地域コミュニティの分断**や心理的影響が住民帰還を阻み、高齢化が進行。これらの要因が複合的に作用し、人口減少が加速する悪循環に陥っている。

南相馬市で女性人口と男性人口の差が著しいのは、**東日本大震災と福島第一原発事故の影響が主な原因**である。放射線リスクや子育て環境への不安から、特に妊婦や子育て世代の女性が市外に移住し、戻らないケースが多い。

また、震災後の雇用機会が男性中心の復興事業に偏り、女性を雇用する職場環境が整わないことや、若年層の進学・就職による都市部への流出も人口の男女差の拡大に拍車をかけている。この女性人口減少は、出生数の低下や地域コミュニティの衰退をもたらし、**長期的には人口減少の加速や地域経済の縮小**を招く懸念がある。

3.南相馬市の概要

(5)市内産業

本市の全就業者数は26,786人で、その内訳は農林水産業の第一次産業が5.5%(全国:3.5%)、建設業と製造業からなる第二次産業が31.9%(全国:23.7%)、60.1%(全国:72.8%)が第三次産業となっている。全国の産業構成と比べると、第二次産業の割合が高いことが特徴である。

また就業者数に関しては、建設業、製造業、卸売業、小売業、医療福祉業の順に多くなっている。



出典：国勢調査

- ・建設業/製造業の割合が多いが、震災の影響もあり第一次産業の就業者数は少ない
- ・観光に関わる宿泊業、飲食サービス業の就業者数は少なく、来街者の受け皿となる消費先が少ないことが想定される
- ・一方で市の充実した起業支援策もあり、創業数は都市圏を除けば福島県有数で、新産業創出の機会は潜在的に多い

令和に生まれた福島県内企業の動向調査

令和(2019年5月から2022年4月まで)に設立された福島県内の企業について、設立時期や所在地などについて調査を行ったところ、南相馬市は県内59市町村中5位であった。令和3年度南相馬地域商工業者経済状況調査によると回答事業所の売上高は、震災前の2010年を100とした場合、建設業(126.0)とサービス業(124.5)で増加している。

市郡別社数

	社数	構成比(%)
1 郡山市	682	22.8
2 いわき市	542	18.1
3 福島市	458	15.3
4 会津若松市	177	5.9
5 南相馬市	141	4.7
6 双葉郡	106	3.5
7 須賀川市	97	3.2
8 白河市	85	2.8
9 伊達市	78	2.6
10 二本松市	73	2.4

出典：令和に生まれた【福島県】企業の動向調査

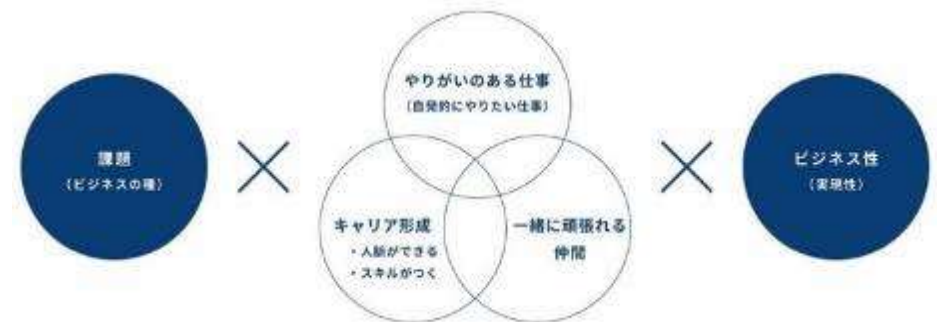
創業比率



出典：RESAS

事業化実現プログラム in 南相馬

首都圏や関西在住の20代が3年で同市での事業立ち上げを目指す「南相馬市事業化実現プログラム」を展開している。



出典：MYSH株式会社 HP

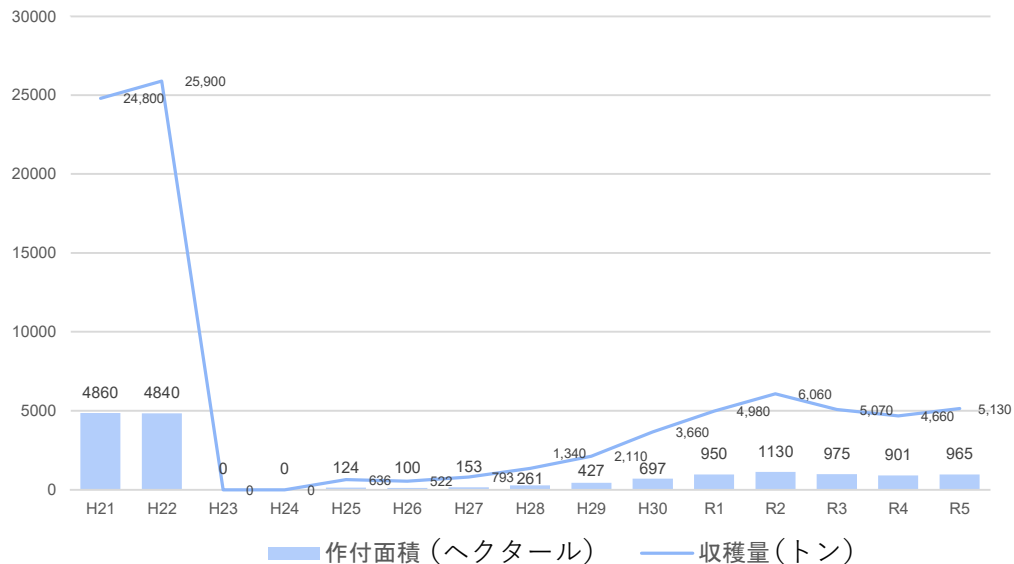
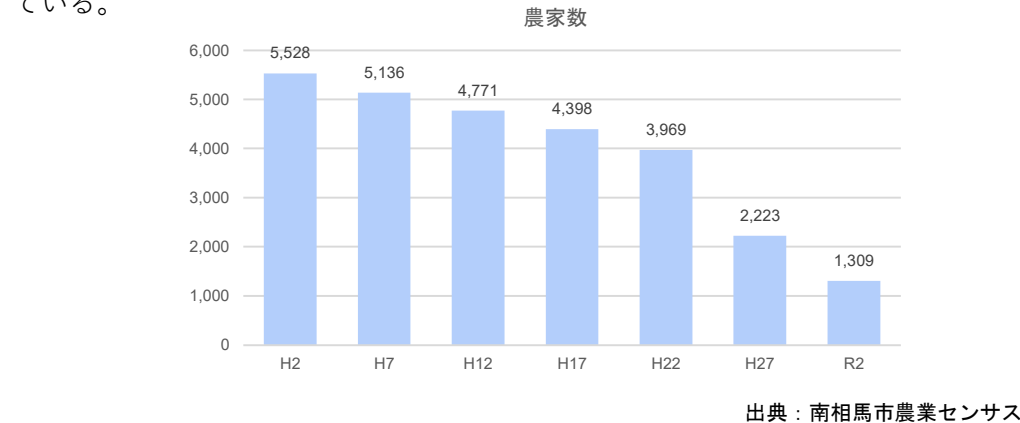
3.南相馬市の概要

(5)市内産業

①農業

南相馬市の農業は、米を基幹作物とし、本市が国の指定産地として指定されているきゅうり、玉ねぎ、トマトの他に、ブロッコリーは全国でも上位にランクインするほどの量が収穫されており、ネギやかぼちゃも多く収穫されている。また、畜産業は、肉用牛や乳用牛などの牛の飼養が中心となっている。

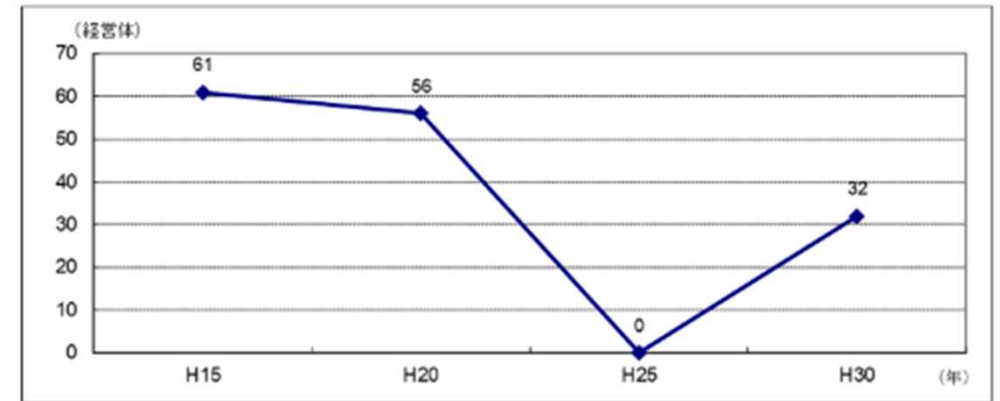
農家数、作付面積、収穫量は、東日本大震災前と比べ、いずれも大きく減少している。



②漁業

南相馬市の漁業は、東日本大震災以前は沿岸漁業を中心に行われていた。漁業経営体もH15年には61団体あったが、震災と福島第一原発事故の影響で一時的に操業が制限され、0団体となった。

その後、段階的に試験操業が開始され、現在では漁業の再生が進んで5年後のH30年には震災前の約半数にあたる、32団体まで回復した。



③林業

本市の森林面積は、21,409ha で本市全面積 39,850ha の約54%を占めている。森林面積の約60%が民有林、約40%が国有林となっている。

林業経営体は市内に10経営体存在するが、そのうち8経営体が個人経営体である。

■林業データ

林野面積等 (2020年農林業センサス)	
林野面積計	21,409 ha(2.3%)
国有林	8,637 ha
林野庁	8,635 ha
その他官庁	2 ha
民有林	12,772 ha
独立行政法人等	32 ha
公有林	910 ha
私有林	11,830 ha
現況森林面積	21,407 ha
森林以外の草生地	2 ha
森林計画による森林面積計	21,407 ha
国有	8,635 ha
民有	12,772 ha

林業経営体 (2020年農林業センサス)	
林業経営体数	10 経営体(1.3%)
うち個人経営体	8 経営体
法人化している経営体数	2 経営体
農事組合法人	-
会社	1 経営体
各種団体	1 経営体
その他法人	-
地方公共団体・財産区	-
法人化していない経営体数	8 経営体
林家数	834 戸

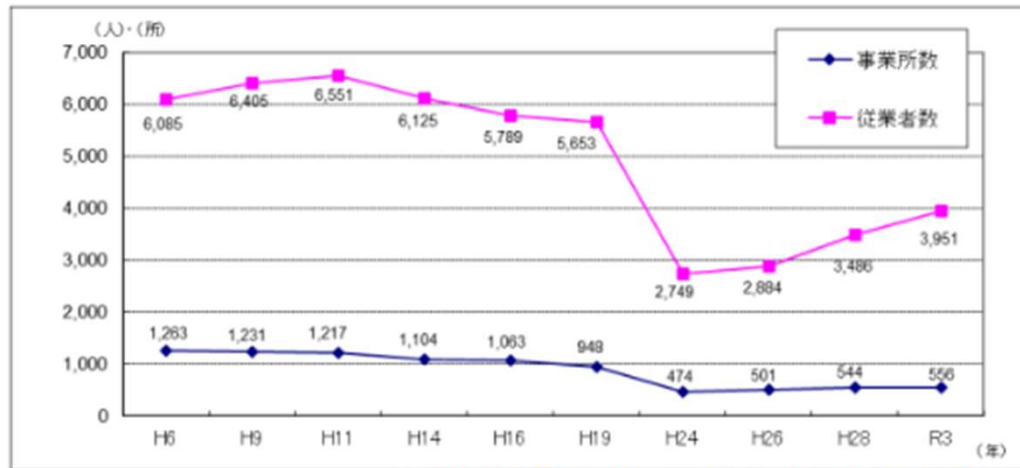
出典：農林水産省HPより

3.南相馬市の概要

(5)市内産業

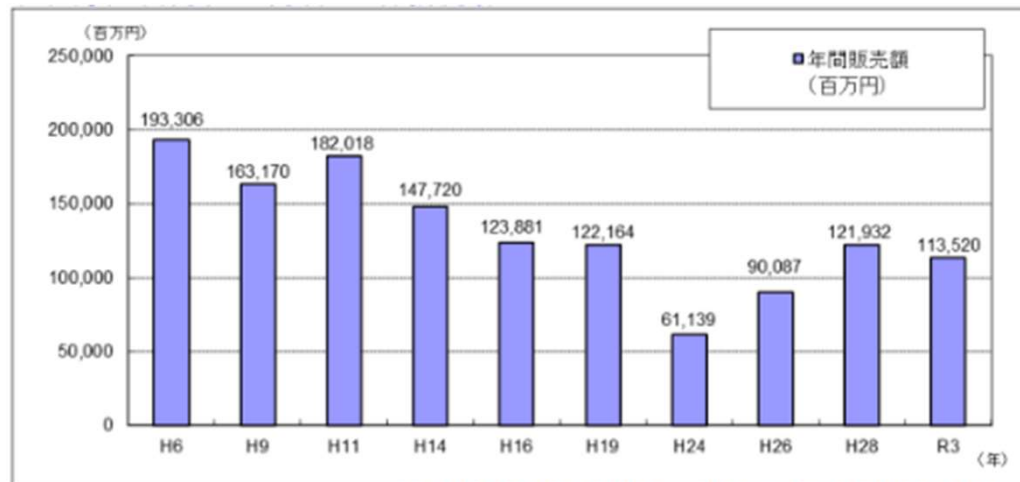
④商業

商業（卸売業・小売業）の事業所数・従業者数の推移



出典：経済産業省「商業統計調査」（H24年・H28年・R3年は経済センサス）
H16年以前は小高町・鹿島町・原町市を合算

商業（卸売業・小売業）の年間販売額の推移



出典：経済産業省「商業統計調査」（H24年・H28年・R3年は経済センサス）
H16年以前は小高町・鹿島町・原町市を合算

令和元年（コロナ前）と比べて令和5年の売上高が減少した理由

（単位：社）

	理由	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
小高区	①来客数の減少	1	3	0	3	11	18
	②客単価の減少	1	1	0	1	4	7
	③営業日数・時間の短縮	2	1	0	0	2	5
鹿島区	①来客数の減少	1	2	1	3	8	15
	②取引先の影響 （営業停止等）	5	2	0	1	2	10
	③客単価の減少	1	1	0	3	4	9
	③取引先の影響 （営業停止等）	12	8	2	5	12	39
原町区	①来客数の減少	8	8	4	37	47	104
	②客単価の減少	5	8	2	21	13	49
	③取引先の影響 （営業停止等）	12	8	2	5	12	39

- ・市内の商業（卸売業・小売業）における従事者数は、徐々に回復傾向を示すものの、令和3年時点で震災前の7割程度の水準に留まっている。
- ・商業（卸売業・小売業）の事業所数も、震災前から緩やかに減少し、令和3年時点の事業所数は、平成19年時点の約6割に留まる。
- ・令和元年（コロナ前）と比べて令和5年の売上高が減少した事業所に対してその理由を尋ねたところ、小高区・鹿島区・原町区のいずれにおいても「来客数の減少」と答えた事業所が最も多く、中心市街地等への人流が滞っている状況が伺える。
- ・以上のように、事業所数は平成24年以降漸増、従業者数は微増、年間販売額は震災前の水準まで回復するなど、堅調な状況とも受け取れるが、当該期間中には市内に多くの復興作業員等が居住していたことを考えると決して楽観視できる状況ではなく、今後の推移を注視する必要があるものとする。

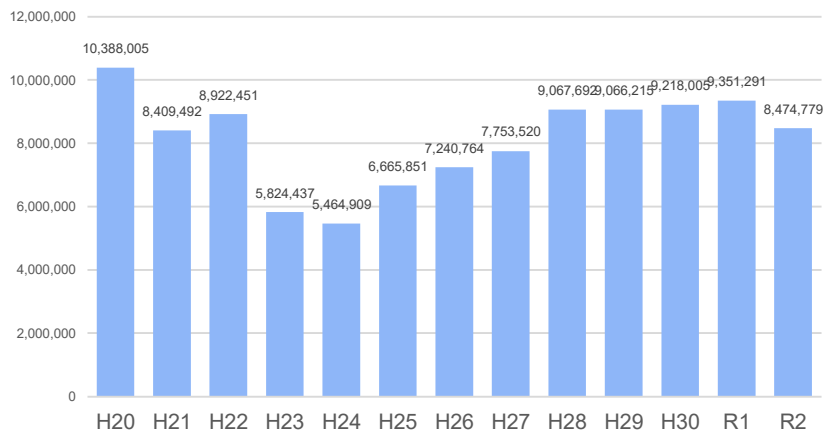
3.南相馬市の概要

(5)市内産業

⑤製造業

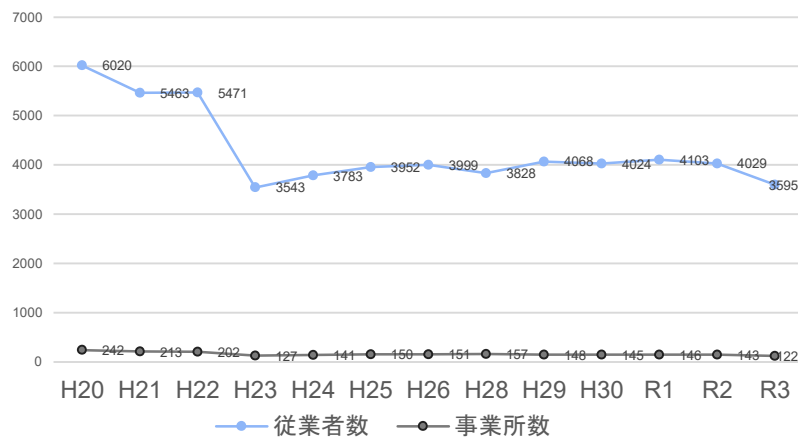
南相馬市は浜通り地方北部で最大の産業・経済集積地となっている。特に、金属・機械関連製造業者の多くが特殊で優れた技術を有しており、繊維縫製業も、高い技術力に定評がある。しかし、国内外の市場に対応した顧客志向の製品づくり、高品質化、短納期、低コストの実現など、中小企業が抱える課題は複雑化しており、事業所や従業者数は年々減少傾向が見られている。

南相馬市の工業の製造品出荷額



出典：南相馬市統計集まちDス2022

南相馬市の工業の事業所数・事業者数



出典：南相馬市統計集まちDス2022

福島イノベーション・コースト構想に基づき整備された「福島ロボットテストフィールド」は、物流、インフラ点検、大規模災害などに活用が期待される無人航空機、災害対応ロボット、自動運転ロボット、水中探査ロボットといった陸・海・空のフィールドロボットを主対象に、実際の使用環境を拠点内で再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない一大研究開発拠点である。



出典：福島ロボットテストフィールドHP



出典：福島ロボットテストフィールドHP

3.南相馬市の概要

(5)市内産業

⑥観光

福島県内観光客入込客数の多い観光地

(単位:人、%)					
順位	施設等名	市町村	R5年計	R4年計	伸び率
1	磐梯高原	北塩原村	1,651,508	1,620,160	1.9
2	道の駅ふくしま	福島市	1,588,539	1,398,266	13.6
3	道の駅国見あつかしの郷	国見町	1,503,000	1,370,343	9.7
4	道の駅伊達の郷りょうぜん	伊達市	1,454,163	1,401,870	3.7
5	あづま総合運動公園	福島市	1,380,463	1,424,807	△3.1
6	いわき・ら・ら・ミュウ	いわき市	1,375,300	1,254,400	9.6
7	セデッテかしま	南相馬市	1,274,547	1,075,898	18.5
8	スパリゾートハワイアンズ	いわき市	1,265,520	948,159	33.5
9	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	湯川村	1,155,936	1,094,631	5.6
10	伊佐須美神社	会津美里町	1,109,717	1,064,271	4.3

出典：福島県観光客入込状況(令和5年分)

セデッテかしまは、観光客数が急増している南相馬市の主要観光拠点であり、その優位性は以下の通りである。

顕著な入込客数の伸び

令和5年の入込客数は1,274,547人で、前年の1,075,898人から18.5%増加しており、その伸び率は県内で2番目に高い。

地域交通の要衝

常磐自動車道に隣接し、広域観光客や物流の中継拠点として機能。車でのアクセスが容易で、広範囲から観光客を呼び込むポテンシャルが高い。

多機能性

道の駅機能や観光案内、地元特産品の販売が充実。飲食、休憩、観光情報提供など、観光客に必要なサービスを一体的に提供。

観光と地域産業の融合

地元の農産物や加工品、伝統工芸品を販売し、地域経済を活性化。観光と商業がシームレスに結びついている点が特長。

南相馬市内観光地等の入込客数の状況

(単位:人、%)			
施設等名	R5年計	R4年計	伸び率
セデッテかしま	1,274,547	1,075,898	18.5
道の駅南相馬	270,521	287,467	△5.9
相馬野馬追	121,400	103,400	17.4
新田川はらまちユッサ	60,541	58,421	3.6
パークゴルフ場	59,394	-	-
鹿島カントリークラブ	29,813	33,641	△11.4
野馬追通り銘醸館	25,091	24,529	2.3
北泉海水浴場	22,800	27,084	△15.8

出典：福島県観光客入込状況(令和5年分)

南相馬市全体の観光エリアとしてのポジショニング

福島県内での地位

セデッテかしまは、福島県内の観光客入込数ランキングで上位7位にランクインし、他地域の観光地と比較して高い競争力を持つ。相馬野馬追などの文化的イベントや、鹿島区のアクセスの良さが観光資源への訪問を後押し。

多様な観光資源

相馬野馬追などの伝統行事、自然景観、歴史的文化資産を有する。海水浴場や温泉地などのリゾート型観光資源も保有。

課題

滞在時間の短さ：観光客の滞在を延ばすための施設やサービスの充実が必要。情報発信力の不足：国内外での観光PR活動の強化が求められる。

3.南相馬市の概要

(6)交通

本市では、市内を縦貫する国道6号や常磐自動車道、またJR常磐線が主要な交通網として機能している。震災以降、公共交通機関が一時全面運休となっていたが、現在は鉄道が全線再開しており、バス事業者も一部運行再開を果たしている。また、公共交通機関が利用しにくい地域の市民向けに定額タクシー「みなタク」の運行や旧避難指示区域で生活する市民の日常生活における不便解消を目的にジャンボタクシーを運行するなど、市独自のサービスを展開している。



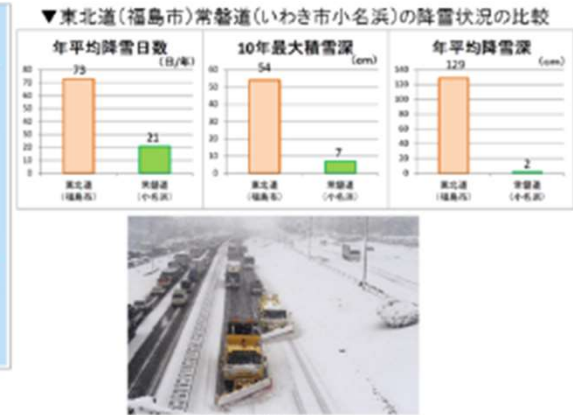
出典：南相馬市HP

交通に関する整備方針

基本理念：『公共交通再建からまちづくりと連携した取り組みへのステップアップ』

- ・既存の鉄道・バス・タクシー事業者が持つリソースを最大限に活用し、官民協働による新たな移動手段を確保する
- ・南相馬市の復興・発展へ向けて、市民の生活環境の変化に対応した全市的・段階的な公共交通網の整備
- ・持続可能な公共交通実現へ向けて、利用意識の変化を促すモビリティ・マネジメントを推進し、みんなで支える仕組みを構築する

東京―仙台を結ぶダブルのネットワーク



東北道の除雪状況

出典：NEXCO東日本HP

◆基本方針1

『市内軸と広域軸の有機的ネットワーク整備』

- ① 市内の日常のおでかけをサポートする3区の主要コミュニティ・主要施設をカバーする市内軸の整備を図ります。
- ② 福島・仙台・首都圏の双方向の移動ニーズに対応した広域軸の整備を図ります。
- ③ 市内軸を補完する面的サービス導入を検討し交通空白地をカバーします。
- ④ 市内軸と広域軸の結節点において、公共交通のみならず、マイカー等の複数交通モードを円滑につなぐ乗継環境の整備を図ります。

◆基本方針2

『市民や転入者、来訪者にわかりやすい情報提供、利用環境の整備』

- ① 公共交通を利用してこなかった市民意識をはじめ、今後の転入者、市外からの来訪者にわかりやすい情報提供を図ります。
- ② 快適に利用できる車両、乗降場所、情報提供システム等の整備を図ります。

◆基本方針3

『おでかけと公共交通利用のきっかけづくり、持続可能な仕組みづくり』

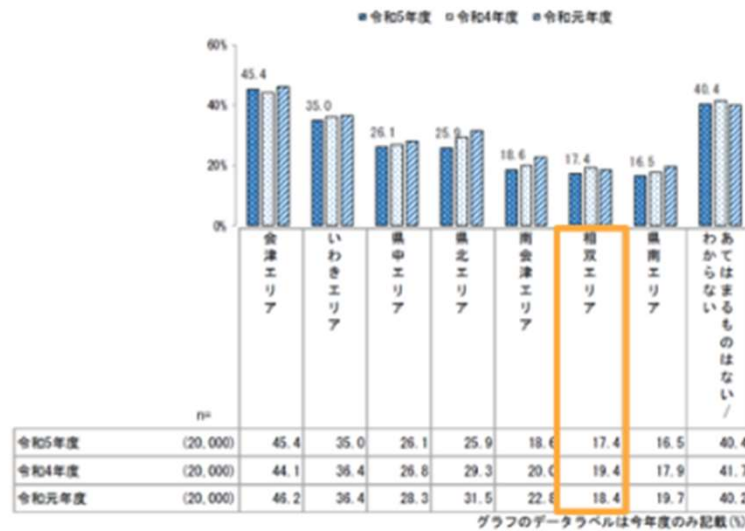
- ① 公共交通の利用意識の変化を促し、公共交通利用のきっかけづくり、外出目的を作り出す取り組みを展開します。
- ② 公共交通とまちづくりが連携し、社会活動が活発化するアイデアを官民協働で実行へ移す仕組みづくりを構築します。

出典：南相馬市地域公共交通網形成計画

3.南相馬市の概要

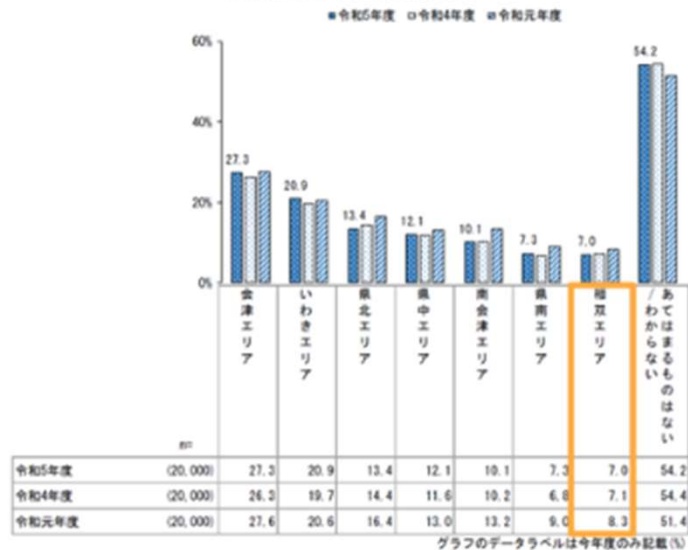
(7)情報発信の状況

福島県のエリア別の認知度



出典：令和5年度福島県観光地実態WEB調査調査結果報告書

福島県のエリア別の関心度



出典：令和5年度福島県観光地実態WEB調査調査結果報告書

1. 相双エリアの認知度

震災後の認知度向上:

東日本大震災や原発事故の影響で、相双エリアは国内外で一時的に注目を浴びた。しかし、被災地としてのイメージが強く、ポジティブな観点での認知度向上が課題。

観光地としての認知度の課題:

相双エリア内には相馬野馬追などの伝統行事や豊かな自然があるものの、福島県内の他エリア（磐梯エリアや会津エリア）と比べて観光地としての認知度は限定的である。

2. 相双エリアへの関心度

災害復興への関心:

復興支援や防災に興味を持つ層にとって、相双エリアは注目されている。福島ロボットテストフィールドなど復興を象徴する施設が注目を集めている。

観光資源への低い関心:

相双エリアは、観光地としての魅力がまだ十分に発信されていないため、観光客や県外の人々からの関心が低い傾向にある。

特産品への興味:

地元産品（農産物、海産物）の品質は高いが、知名度や市場での認知度の向上が課題。

3. 情報発信の状況と課題

震災後の情報発信強化:

復興状況や防災関連の情報が発信されているが、観光資源や地域の魅力の発信が不足している。

情報発信のターゲット層:

福島県内外の若年層や観光客向けの情報発信がまだ限定的であり、効果的なマーケティングが求められている。

ポジティブなイメージ転換の必要性:

被災地としてのイメージを払拭し、魅力的な地域として認知される情報発信が不可欠である。

4. 改善の方向性

観光地としてのブランディング:

相馬野馬追や地域特産品などの強みを活かし、観光資源を広く発信。

デジタルマーケティングの活用:

SNSや動画を活用し、若年層やインバウンド観光客向けにターゲットを絞った情報発信を展開。

地域資源との連携:

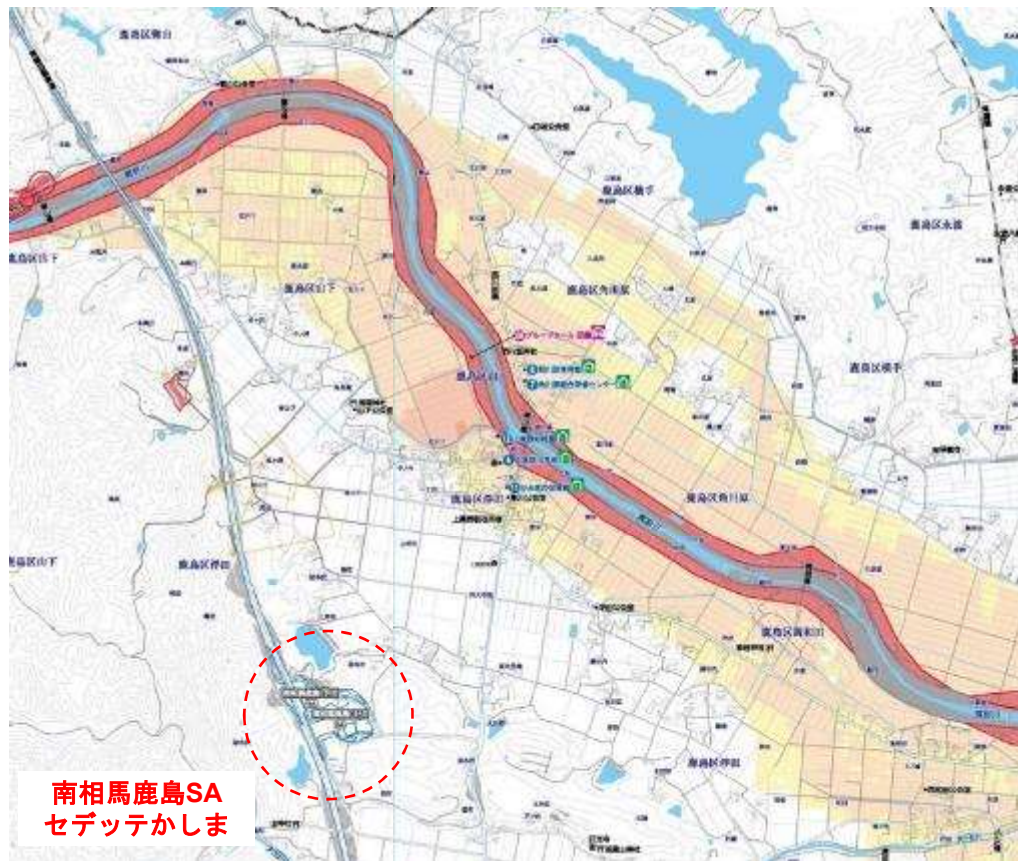
地元産品、伝統行事、自然観光を一体的にプロモーションし、相双エリア全体の認知度と関心度を向上。

3.南相馬市の概要

(8)ハザードマップ

①洪水・土砂災害

計画地は、真野川流域の洪水、土砂災害のエリアから外れている。

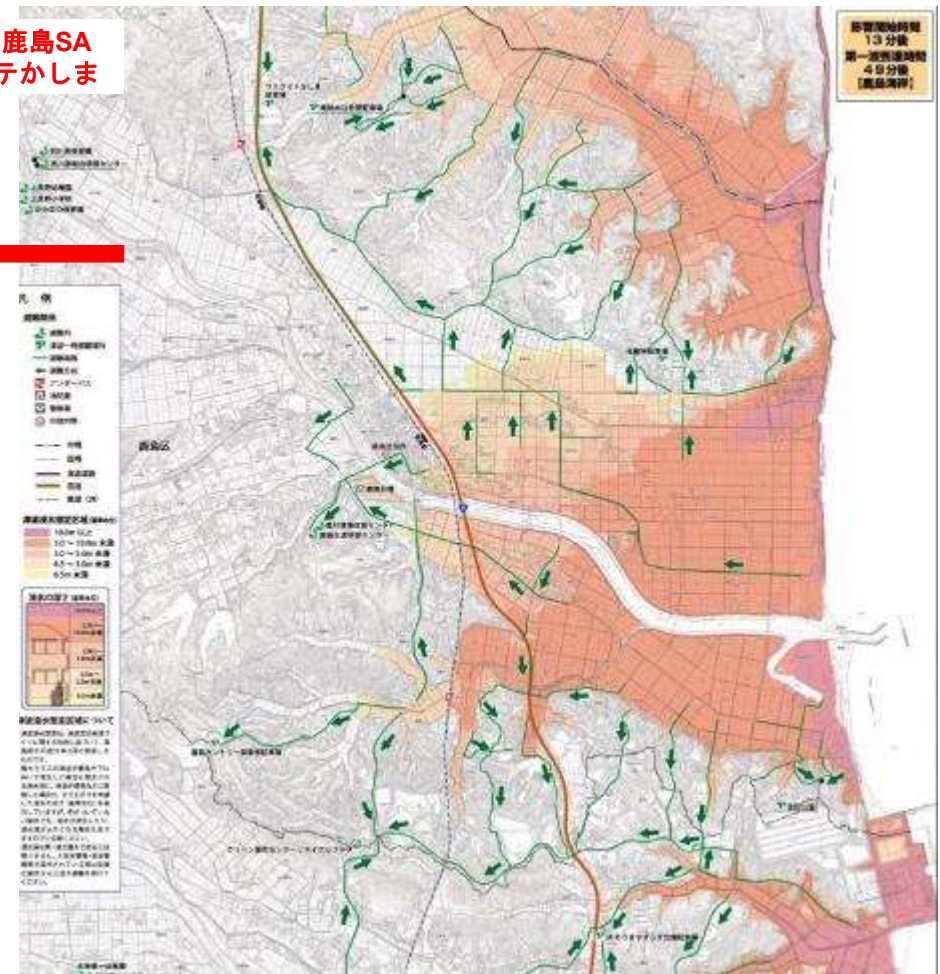


出典：防災マップ

②津波ハザードマップ（地図の範囲外）

計画地は、津波災害のエリアから外れている。

南相馬鹿島SA
セデッテかしま



出典：津波ハザードマップ

3.南相馬市の概要

(8)ハザードマップ

③地盤の揺れやすさマップ

計画地は、地盤の揺れやすさ震度6強の位置にある。



出典：地震津波等ハザードマップ

④建物倒壊危険度マップ

計画地は、倒壊危険度のエリアから外れている。



出典：地震津波等ハザードマップ

3.南相馬市の概要

(9)市の資産

①野馬追・馬文化のまち

南相馬市の馬文化は、歴史が長く、地域に根付いたものである。「相馬野馬追」がその象徴で、相馬野馬追は千年以上の歴史を持つ伝統行事であり、例年5月に開催される。鎧兜をまとった騎馬武者が参加する出陣式や甲冑競馬、神旗争奪戦などが行われ、武士の時代を彷彿とさせる壮大な祭りである。特に、野生の馬を奉納する神事「野馬懸」は馬の力強さと神聖さを感じさせる。

また、南相馬市では古くから農耕や移動手段として馬が生活の一部であった。震災後も馬文化は地域復興の象徴として守られ、祭りや教育活動を通じて伝統が受け継がれている。観光客向けには乗馬体験や歴史を学ぶプログラムも提供され、訪れる人々に深い感動を与えている。相馬野馬追は地域の誇りであり、馬文化の魅力を広く伝える貴重な機会である。



出典：南相馬市観光情報サイトHP

②ロボットのまち

福島イノベーション・コースト構想に基づき、福島県が整備した「福島ロボットテストフィールド」は、物流、インフラ点検、大規模災害などに活用が期待される無人航空機、災害対応ロボット、自動運転ロボット、水中探査ロボットといった陸・海・空のフィールドロボットを主対象に、実際の使用環境を拠点内で再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない一大研究開発拠点である。



出典：福島ロボットテストフィールドHP



出典：福島ロボットテストフィールドHP

3.南相馬市の概要

(9)市の資産

③宇宙産業・ロケットのまち

南相馬市は、宇宙産業への取り組みを急ピッチで進めている。

企業誘致等を行い、次々に航空宇宙関連企業や大学と連携協定を締結し、令和6年には3回のロケットの打ち上げ実験を実施した。国内外で活躍する有識者や実務者を集めた福島スペースカンファレンスは、まさに、産官学が一体となった動きの象徴である。

また、「福島ロボットテストフィールド」に隣接した工業団地では、航空宇宙産業に特化したインキュベーション施設の整備が計画されている。



2024.08.09に開催された福島スペースカンファレンスでは、8本のセッションを実施し、44人が登壇



2024.12.25城内経済安全保障担当大臣(宇宙政策担当)視察



2025.1.3福島民友朝刊1面

④サーフィンのまち

南相馬市は、豊かな自然と海岸線を有する地域である。この地域では、サーフィングが地元住民や訪れる人々の間で広く親しまれてきた。南相馬市の海岸は、太平洋のうねりを受けやすい地理的特性を持ち、初心者から上級者まで楽しめる波があることが特徴である。

特に、北泉海岸はサーフィンの名所として知られ、多くのサーファーが訪れる人気スポットである。

サーフィン文化は地域活性化にも寄与しており、サーフィン関連のイベントや大会が定期的に行われ、観光業や飲食業をはじめとした地元経済が活性化している。また、サーフィンを通じた交流やネットワークの形成も行われている。

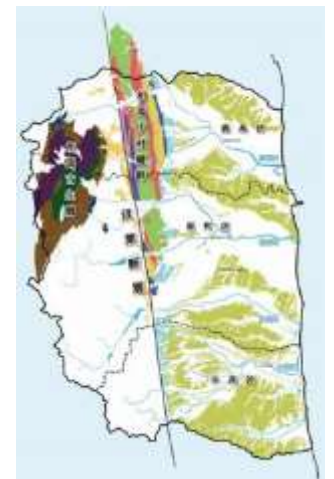
このように、サーフィンは単なるスポーツとしてだけでなく、地域に新しい価値をもたらす文化として定着している。



震災復興支援サーフィンイベント「KITAIZUMI SURF FESTIVAL」

⑤恐竜のまち

南相馬地域では、古生代や新生代の地層が確認されている。この地域では化石の発掘や研究が行われており、特に植物化石や海洋生物の化石が多く見つかった。中には古代のシダ植物やアンモナイトの化石など、当時の生態系を物語る重要な標本も含まれている。また、恐竜に関連する直接的な化石の発見例は少ないものの、中生代の地層が分布していることから、恐竜の生息域を考える上で注目されるエリアの一つである。SA近くの相馬中村断層では、地域での積極的な活動が行われており、子ども達を対象とした発掘イベント等も開催されている、大きな可能性を秘めた地域資源である。



化石が産出する南相馬市内の地層分布 久保・柳沢ほか（1990）

3.南相馬市の概要

(9)市の資産

⑥こども達の笑顔がかがやくまち

南相馬市は震災・原発事故以降、低下した出生数を回復させるため、出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまで切れ目のない支援を進めている。「こども達の笑顔がかがやくまち」を目指して取組みを推進している。「医療費」「保育料」「給食費」の3つの無料化に加え、企業と連携して子育てしやすい職場づくり、地域みんなで子ども達の夢を応援する「巣立ち応援18歳支援事業」などを実施している。これらの取組が評価され、令和5年(2023年)には「第4回日本子育て支援大賞」を受賞した。また、令和7年(2025年)1月に発表された「2025年版住みたい田舎ベストランキング」では子育て世代部門で東北エリア1位と評価された。

また、フォニックスなどの英語学習、国際バカロレアプログラムの導入など学校教育の充実にも力を入れている。子育て環境は南相馬市の特徴の一つとなっている。「こども子育て 本気で応援 みなみそうま」

※フォニックスとは、英語圏の子どもたちに英語の読み書きを教えるために開発された学習法。アルファベットごとの発音を先に学ぶことで、知らない英単語でも耳で聞いただけでスペルがわかり、正しく書くことができるようになるなど、英語の読み書きの基礎を養うことができる。



⑦移住者・チャレンジャーのまち

南相馬市では震災・原発事故により、急速な人口減少、少子高齢化に見舞われた。特にまちづくりの担い手となる世代や将来のまちづくりを担う世代の減少は顕著であった。このような状況を受け、南相馬市では前述の子育て環境の充実に加え、移住定住施策を積極的に実施している。この取組は、江戸時代、天明の大飢饉後に移住施策により危機を乗り越えた歴史にも通じるところがある。平成29年度(2017年度)に45人であった県内外からの移住者は令和5年度(2023年度)には571人となり、着実に成果をあげている。

先の見えない不安よりも、限らない可能性を楽しみ、想像力と実践をもって、未来をつくっていききたい。そんなチャレンジャーも数多く南相馬市へ移住して夢を実現している。予測不可能な未来を楽しもうとする姿は市内だけでなく、被災地全体に影響を与えている。

移住者の推移

H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	合計
45人	76人	93人	106人	229人	336人	571人	1,456人



3.南相馬市の概要

(10)周辺地域を含む地域資源

いにしえと革新が共鳴するまち、南相馬

この地域は、いつの時代も古きものと新しきものが交わり、互いに響き合いながら発展してきた地です。

古代、この地は奈良・平安の文化や技術を柔軟に受け入れ、独自の形に昇華させながら栄えました。

中世には関東から相馬家が下向し、数百年にわたり地域の礎を築きました。

江戸時代には、大飢饉という試練に直面しながらも、当時最先端の財政手法である「報徳仕法」を採用し、

さらに北陸からの移民を迎え入れることで困難を乗り越えました。

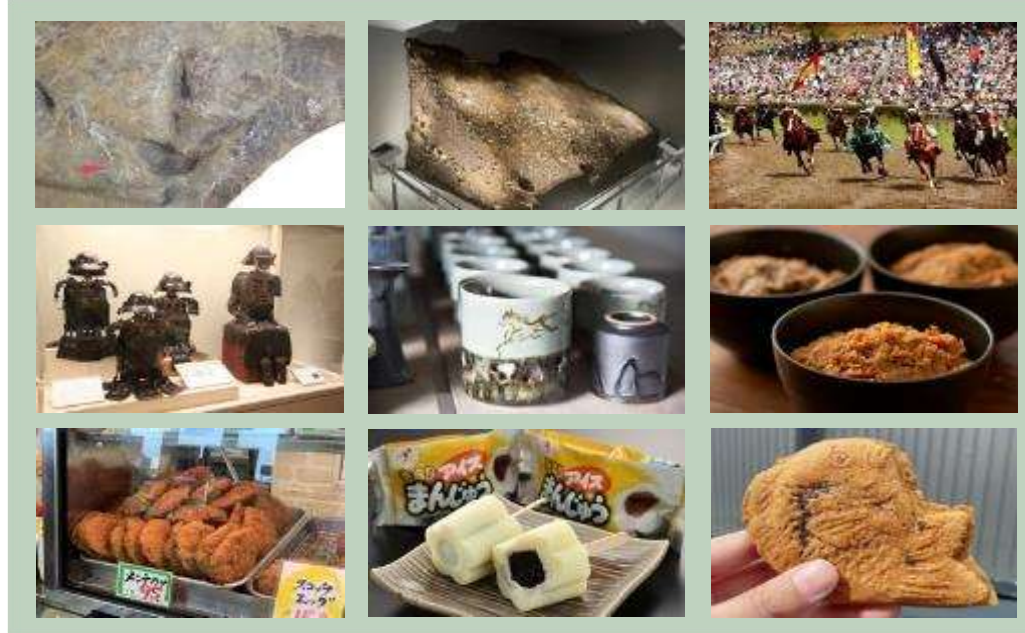
そして現代、東日本大震災という未曾有の災害に見舞われながらも、地元の人々は受け継がれてきた土地の営みを守り続け、その土壌に新たな風を呼び込む移住者たちが次々と挑戦を始めています。

南相馬には、「いにしえ」「むかしながら」「なじみ」といった歴史や伝統が根付く一方で、「未来への革新」「あたらしい挑戦」「多様な共創」が息づいています。

異なる価値が共存し、互いの魅力を最大限に引き出しながら進化を続けるまち。それが南相馬です。

3.南相馬市の概要

(10)周辺地域を含む地域資源



「いにしえ」「むかしながら」「なじみ」

「いにしえ」

1億年前の化石、5千年前の縄文貝塚、千年続く相馬野馬追。
太古の昔から悠久の時を超えて連綿と続く歴史と文化を堪能できます。

「むかしながら」

侍が纏った甲冑、誇りを背負った旗指物、江戸時代から続く焼物。
伝統を継承し、守り続ける職人がいます。

「なじみ」

親から子、子から孫へと食べられてきたソウルフード。
決して派手ではないですが、家族の記憶と共に愛され続ける温かな味わいがあります。

3.南相馬市の概要

(10)周辺地域を含む地域資源



「未来への革新」「あたらしい挑戦」「多様な共創」

「未来への革新」

ロボット、ドローン、ロケットなどの最先端航空宇宙産業。
地域の復興のため、そして未来への革新のため、全国の企業が集結し、日々、研究・実証・開発をしています。

「あたらしい挑戦」

クラフトSAKEや腕時計、ガラスアクセサリなどのあたらしい地域ブランド。
かつて人口がゼロになった小高区は、いま、あたらしい挑戦が生まれる場所となっています。

「多様な共創」

「うまさんぽ」「俺たちの醤油プリン」。
伝統と革新、なじみと意外性など多様な共創が、また新たな価値をこの地にもたらしています。

3.南相馬市の概要

(10)周辺地域を含む地域資源 地域資源との向き合い方①

“若松味噌醤油店”



浜風が育む山吹色の『味噌』

大豆・塩・米糀(こめこうじ)のみから作られる、こだわりの無添加の田舎味噌。

本州でこの若松味噌醤油店のみが使う特別な種麹と、伝統の糀蓋製法を駆使し、味噌の味の決め手となる自家製米糀を丁寧に作り上げています。浜の涼しい気候が、『若松味噌』の証である、鮮やかな山吹色と奥深い甘みを引き出しています。



自家製米糀のこだわり『あま酒』

真っ白で甘い自家製米糀と水だけで作る『糀あま酒』。その優しい味わいは幅広い世代に人気を博しています。地元のお祭りなど特別な日には、賞味期限が短く流通ルートに乗せられない『生あま酒』も登場。米の粒感と豊かな甘みが絶品です。

10代目店主が伝える味噌の道

若松味噌醤油店の魅力は、味噌の奥深さを探求し続ける10代目・若松真哉さんの情熱。最適な味を求めるだけでなく、味噌づくり教室や蔵見学ツアーを通じて、その魅力を広めています。味噌の伝道師として、伝統を守りながら新たな可能性を切り拓いています。



本事業における発展性のイメージ案

【好きなみそと地元の厳選素材でオリジナルみそ玉】

味噌づくりを探究する若松さんがセデツカしま限定で仕込んだ豊富な種類の味噌を、まるでジェラートを選ぶようにチョイスし、相馬地方で採れた素材と組み合わせ、自分だけのみそ玉を作ることができます。

炊き立ての南相馬市産米おにぎりと一緒にその場でおいしく食べられるほか、パッケージに包んでお土産にも。



【味噌伝道師 若松さんの直伝の味噌づくり体験と生あま酒】

セデツカしまに増設された南相馬を体験できるスペースでは、若松さん直伝の味噌づくり教室を家族で体験！

教室のあとには、この日のために若松さんが仕込んだ、限定の生あま酒を通して、味噌と糀の奥深さをとことん味わうことができます。



※地域資源と本事業の相乗効果の可能性をイメージしたものであり、実際の事業計画ではありません。

3.南相馬市の概要

(10)周辺地域を含む地域資源 地域資源との向き合い方②

“相馬牧場”

羊との出会い

相馬牧場主の相馬秀一さんは、東日本大震災前は乳牛を飼育していましたが、震災の発生により避難を余儀なくされ、乳牛たちは餓死や殺処分となり命を落とし、牧場の全てを失いました。

避難指示が解除され南相馬市に帰還後、牧草等の飼料生産を再開した際に羊を飼いはじめました。その後、知人からのアドバイスにより、本格的に食肉用に羊の飼育を開始しました。



飼料へのこだわり

子羊の段階においては、牧場内で生産された牧草をふんだんに与えています。また、品質を重視している相馬牧場では、**羊肉特有のクセを和らげジューシーな肉質**にするため、肥育段階においてトウモロコシ等の穀物飼料を与えています。その穀物もすべて南相馬市産というこだわりようで、**名実ともにメイドイン南相馬市の羊づくり**に取り組んでおり、福島の食の安全性を証明する存在でもあります。

※肥育とは、肉量・肉質を良くするために良質の飼料を与えて飼育することです。

「国産×純血サフォーク種」がもたらす美味しさ

国産の羊肉は、全国の流通量のわずか1%未満と非常に貴重です。さらに、純血のサフォーク種は特に肉質の高さに定評があります。**国産×純血サフォーク種**にこだわる相馬牧場の羊は、**全国的にも極めて希少であり、その品質の高さは群を抜いています。**

また、料理人と共に良質な羊肉を目指して試行錯誤を重ね、飼育技術を磨くことにより、**首都圏の羊肉専門店にて高い評価**を得ています。



本事業における発展性のイメージ案

【MINAUMA大集合！BBQ】

相馬牧場自慢の羊肉を、南相馬市産の野菜やお米と味わう、厳選BBQメニューを提供します。産地直送ならではの新鮮なお肉や、市場にはあまり出回らない貴重な部位を食べることもでき、羊肉の新たな魅力と出会うことでしょう。



【牧場を通した食育サイエンスワークショップ】

相馬牧場で育つ羊達の体の仕組みや生態、飼料による肉質・栄養素の変化、お肉が牧場から流通を通して食卓に届くまでの過程など、食を取り巻く世界を家族や友人と一緒に楽しく学べる体験プログラムです。



【羊毛クラフト体験】

毛刈りに始まり、原毛を「洗う」こと、紡いだ糸を用いた編み物づくりや羊毛フェルト作品づくりなど、手仕事に関わる各工程の体験を通して、私たちの暮らしとゆかりの深い羊毛（ウールなど）が世に出てくるまでのストーリーを手肌で体験します。



本事業地内で「食べること」「知識を得ること」「作ること」を通して、南相馬市で培われている羊文化に触れ、そこで生まれた興味・関心を探ることを発端に、本エリア内の拠点を訪れるきっかけづくりに繋がりたいと考えています。

※地域資源と本事業の相乗効果の可能性をイメージしたものであり、実際の事業計画ではありません。

4.関連・上位計画の状況

(1)南相馬市第三次総合計画

南相馬市第三次総合計画は、令和5(2023)年3月に策定し、計画期間が令和5年(2023)度～令和12年(2030)度までの8年間となっている。

令和5(2023)年度～令和8(2026)年度までを計画期間とする「南相馬市第三次総合計画前期基本計画」では、政策の柱4「産業・しごとづくり・移住定住」、基本政策9「観光交流」において、現状と課題が「地方への人の動きが見直されている機運を逃さず、選ばれる地域となるための施策展開が必要」と整理している。

その具体的な施策の展開として、施策30「交流人口の拡大」における取組方針では、「観光資源、文化遺産、デジタル技術等を活用した多彩な取組により交流人口等の拡大を図る」ことを示し、主な取組例として「南相馬鹿島SA等地域資源の利活用」を明記している。

また、政策の柱5「都市基盤・環境・防災」、基本政策11「都市基盤」、施策32「道路網の整備」における取組方針では、「常磐自動車道の全線4車線化（略）等、都市間交通の整備実現に向けて取り組む」ことを明記している。

南相馬市第三次総合計画 観光交流の施策展開（p95）

都市基盤の施策展開（p100）

施策 30 交流人口の拡大

取組方針

- 観光資源、文化遺産、デジタル技術等を活用した多彩な取組により交流人口等の拡大を図ります。
- 災害時相互援助協定締結自治体等との交流を、オンライン等の活用も視野に入れ継続します。
- 姉妹都市・友好都市との交流、親善を図ります。

主な取組例

- 観光物産品のPR強化
- 南相馬鹿島SA等地域資源の利活用
- 首都圏や各地での特産品販路拡大への支援
- 地域資源を活用した地域内外での交流支援
- 友好都市間交流の推進
- 国際交流の推進
- 各種スポーツ大会・イベントの開催【再掲】

施策 32 道路網の整備

取組方針

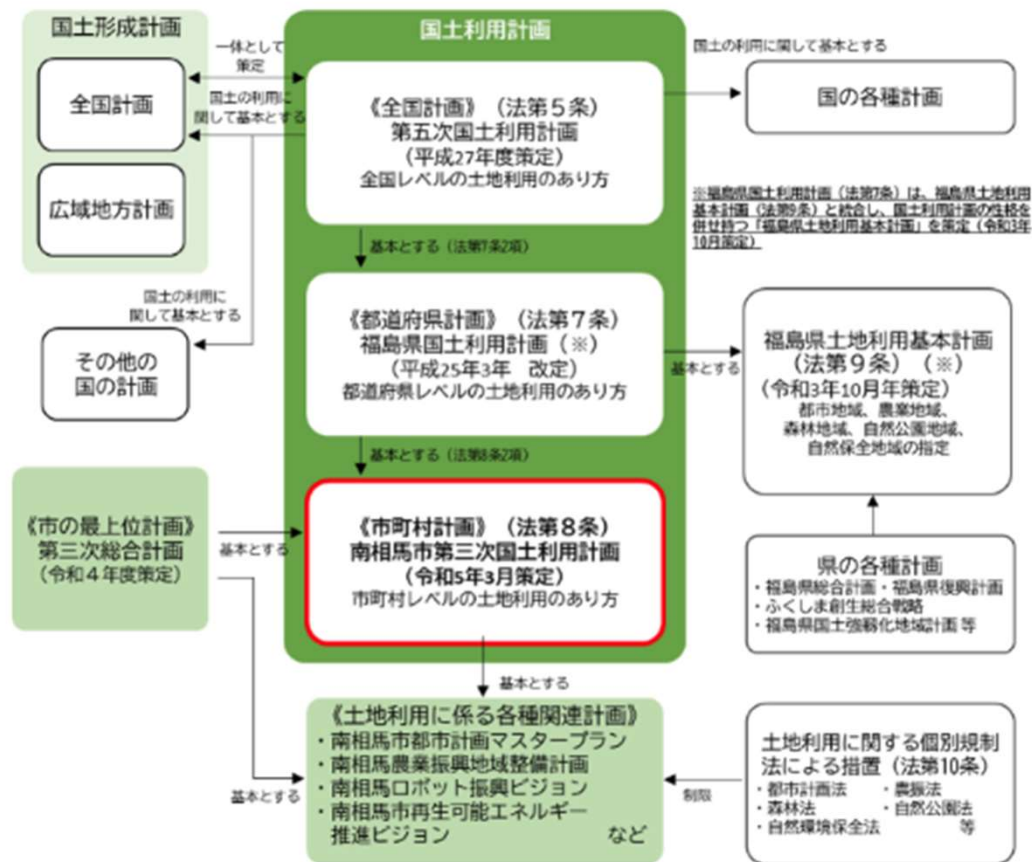
- 常磐自動車道の全線4車線化、(仮称)小高スマートインターチェンジ、インターアクセス道路（都市計画道路下高平北長野線）の早期整備、国道6号の一部4車線化等、都市間交通の整備実現に向けて取り組みます。
- 既存施設の長寿命化や新技術等を活用した効率的な維持管理に取り組みます。
- 市民の住環境向上のため市内幹線道路及び生活道路の整備を推進します。

主な取組例

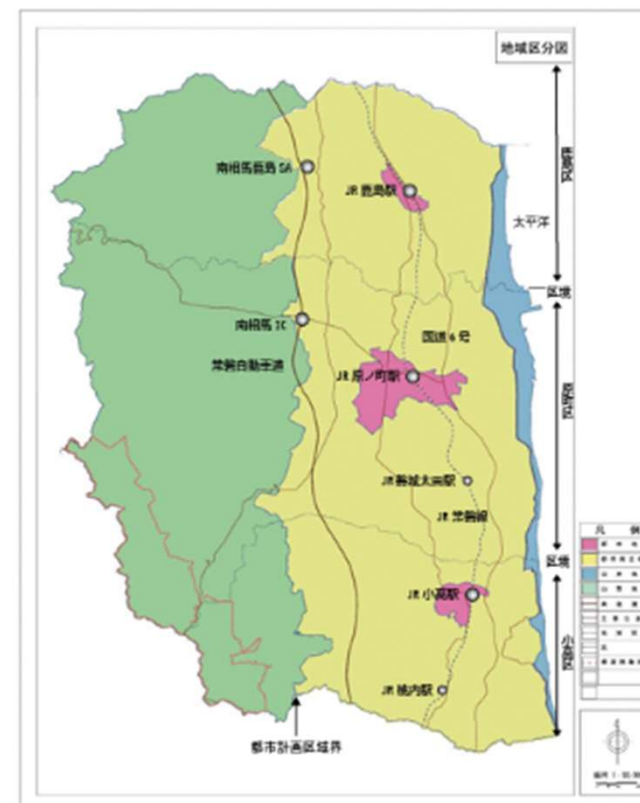
- (仮称)小高スマートインターチェンジの整備促進
- 国道・県道・高速道路に関する要望活動の実施
- 長寿命化修繕計画等に基づく適切な維持管理による、道路施設の長寿命化対策の実施
- 市内幹線道路及び生活道路の整備推進

4.関連・上位計画の状況

(2)南相馬市第三次国土利用計画



【図】：地域区分図



令和5(2023)年3月に策定した、南相馬市第三次国土利用計画では、南相馬鹿島SAとSAを含む地域が次のように位置付けている。

第3章 利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及びその地域別の概要

2 地域別の概要

(2) 地域別の概要

イ 都市周辺地域

【土地利用の方向性】

都市周辺地域は、「西の玄関口」としての常磐自動車道の南相馬インターチェンジ及びスマートインターチェンジを備えた南相馬鹿島サービスエリアを有し、産業・経済等に関わる高度な土地利用が想定される重要な地域である。

（仮称）小高スマートインターチェンジの設置も決定している。このため、周辺の農地や自然環境の保全、景観との調和に配慮しながら、南相馬インターチェンジ周辺は首都圏等の主要な都市とアクセスする生産・流通の拠点として、南相馬鹿島サービスエリア周辺は、情報発信や地域振興等の拠点として、（仮称）小高インターチェンジ周辺は、市民の帰還促進や産業団地等を活用した企業誘致の推進、交流人口の拡大に向けて、計画的な土地利用を推進している。

(3)南相馬市都市計画マスタープラン

[illegible]

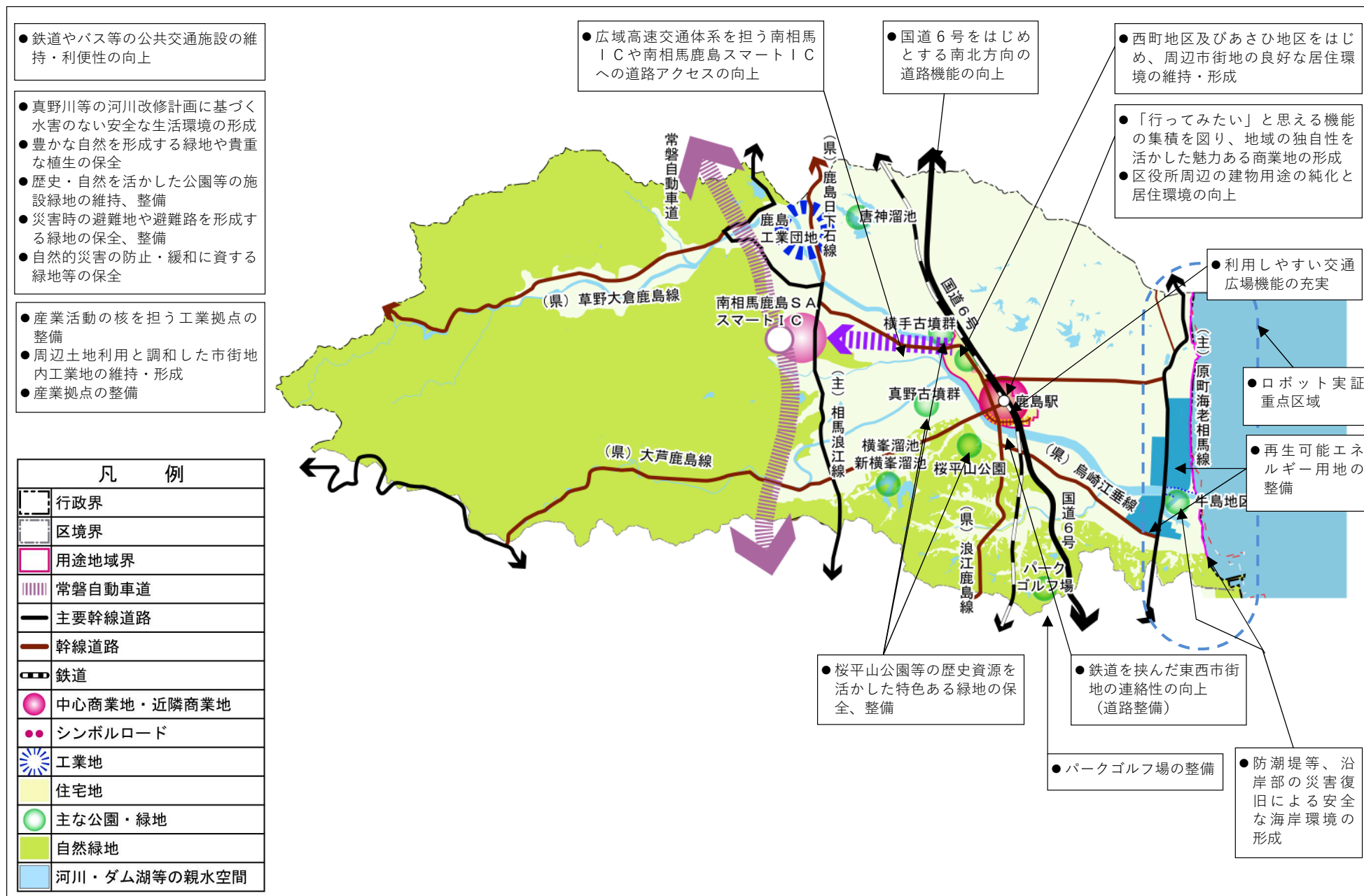
また、都市施設整備の方針では、「広域高速交通体系を担う南相馬ＩＣや南相馬鹿島スマートＩＣへの道路アクセスの向上」が掲げ、次の点を具体的な内容として記載している。

○常磐自動車道は、首都圏と東北地方の太平洋沿岸南部を結ぶ国土軸としての役割を担う高速道路であり、市街地から南相馬ＩＣや南相馬鹿島スマートＩＣにアクセスする道路ネットワークの整備を促進し、常磐自動車道の利便性の向上を図る。

4.関連・上位計画の状況

(3)南相馬市都市計画マスタープラン

鹿島区の整備方針図



4.関連・上位計画の状況

(4)南相馬市地域防災計画

災害対策基本法第42条に基づいて策定する南相馬市地域防災計画において、セデッテかしまを自然災害によって市内の水の供給が停止した際の鹿島区内の給水活動の拠点の1つに位置付けている。

実際に令和元年台風や令和4年福島県沖地震の際に市内の水の供給が停止した際は、セデッテかしまにおいて市民に対する給水活動を行った。

第1部 災害応急対策計画

第8章 飲料水・食料・生活必需品等の供給

第2節 飲料水の供給

第1 飲料水の供給

(中略)

(3) 給水拠点の設定

給水拠点は、応急給水栓等が整備されている箇所のほか、次の施設の駐車場等を候補地として速やかに設定する。候補地が使用できない場合や不足する場合は、給水車や給水を受ける住民の動線などを考慮し、避難所、公園、集会場等を活用し設定する。

小高区：浮舟文化会館、小高保健福祉センター、小高片草運動場、就業改善センター

鹿島区：鹿島生涯学習センター、かしま交流センター、セデッテかしま

原町区：石神第二小学校、原町保健センター、道の駅南相馬、各生涯学習センター



4.関連・上位計画の状況

(5)観光立国推進基本計画（第4次）

令和5年3月に閣議決定された観光立国推進基本計画（第4次）は、計画期間が令和7(2025)年までの3年間であるが、国の全体の方向性を把握する上で重要な計画である。「持続可能な観光地域づくり戦略」「インバウンド回復戦略」「国内交流拡大戦略」の3つの柱が掲げられ、インバウンド消費、国内旅行消費等に数値目標が掲げられている。

「持続可能な観光地域づくり戦略」では、観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進すること、「インバウンド回復戦略」では、消費額拡大・地方誘客促進を重視すること、「国内交流拡大戦略」では国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指すこと、旅行需要の平準化と関係人口につながる新たな交流需要の開拓を図ることとされ、順次実行されている。

- 観光はコロナ禍を経ても**成長戦略の柱、地域活性化の切り札**。国際相互理解・国際平和にも重要な役割。
- コロナによる変化やコロナ前からの課題を踏まえ、我が国の観光を持続可能な形で復活させる。
- 大阪・関西万博も開催される**2025年**に向け、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組み、全国津々浦々に観光の恩恵を行きわたらせる。

計画期間：
令和5～7年度
(2023～2025年度)

基本的な方針

持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進する
- 観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善にもつなげる
(「稼げる産業・稼げる地域」)
- 地域住民の理解も得ながら、地域の自然、文化の保全と観光を両立させる
(「住んでよし、訪れてよし」)



インバウンド回復戦略

- 消費額5兆円の早期達成に向けて、施策を総動員する
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視する
- アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

国内交流拡大戦略

- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す
- 旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる新たな交流需要の開拓を図る

目標

- 早期達成を目指す目標：インバウンド消費5兆円、国内旅行消費20兆円
- 2025年目標（質の向上を強調し、人数に依存しない指標を中心に設定）

持続可能な観光地域づくり	地域づくりの体制整備	① 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数【新】	100地域
	インバウンド回復	② 訪日外国人旅行消費額単価【新】	20万円/人
		③ 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数【新】	2泊
		④ 訪日外国人旅行者数	2019年水準超え
		⑤ 日本人の海外旅行者数	2019年水準超え
		⑥ 国際会議の開催件数割合	アジア最大・3割以上
国内交流拡大		⑦ 日本人の地方部延べ宿泊者数	3.2億人泊
		⑧ 国内旅行消費額	22兆円

主な施策

- 観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- 観光DX、観光人材の育成・確保
- 持続可能な観光地域づくりのための体制整備等
- コンテンツ整備、受入環境整備
- 高付加価値なインバウンドの誘致
- アウトバウンド・国際相互交流の促進
- 国内需要喚起
- ワークーション、第2のふるさとづくり
- 国内旅行需要の平準化

目指す2025年の姿

- 活気に満ちた地域社会の実現に向け、地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」が全国各地で進められ、**観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、交流人口・関係人口の拡大**がコロナ前より進んだ形で観光が復活している
- 万博の開催地である我が国が**世界的潮流を捉えた観光地**として脚光を浴び、「持続可能な観光」の先進地としても注目されている

4.関連・上位計画の状況

(6)福島浜通り地域等15市町村の交流人口拡大に向けたアクションプラン

令和4（2022）年5月に、福島県と経済産業省から公表された福島浜通り地域等15市町村の交流人口拡大に向けたアクションプランは期間が令和7（2025）年までとなっているが、浜通りの観光の現状と課題、方向性を理解する上で参照すべきプランである。

「この地ならではの」との基本理念が掲げられ、市町村の枠を超えた市町村間の連携による広域コンテンツの創出、マーケティングに即したプロモーションの展開と観光情報の集約・発信等重要な視点が整理されている。

アクションの全体像

V.市町村間の連携（ヨコ）のアクション

- 広域コンテンツ作りにおける市町村の役割：①方針の主導的な設定（どういうテーマか、どんな人を呼び込みたいかなど）や、②作りこみや実行段階での民間への側面支援（地元事業者等への参画呼びかけ、地元関係者との合意形成支援、情報発信など）
- 専門家・民間との連携：「我がゴト」として双方向に継続・建設的に議論を重ね、互いの思いや意見をすり合わせ、信頼関係を醸成
- 連携テーマと方向性：複数市町村に共通する6テーマについて、基本理念を踏まえた**具体・手触り感ある広域コンテンツ作りに取り組む**。

※ 進捗を見つつ途中参加するなど、参加・不参加は柔軟に変更可とする。

①酒・グルメ（食）	②スポーツ（サイクル）	③山・自然	④海・自然	⑤歴史・文化	⑥芸術
・ 参画市町村：田村、富岡、川内、大熊、葛尾、飯館 ✓ 酒やグルメの産品や料理、風光明媚な自然などを楽しむことに加え、 生産元の「人」と語り、思いや生き様を体感する 、酒・グルメ・人・自然を組み合わせた広域のツアー作り。 ✓ アウトドアやキャンプなどの自然との連携や、シェアや域内外の飲食店との連携、サステナブルな食などのブランディング	・ 参画市町村：いわき、広野、楢葉、葛尾、新地 ✓ 自然豊かな山間や適度なアップダウン、太平洋を見渡す沿岸、そして複合災害を学ぶ伝承館などを繋ぐ、 復興により都度変わる「情景」を体感する 、 15市町村サイクルルート ✓ 復興を眺望できる ビューポイント や おもてなし処の情報発信 、地元 サイクルガイド の養成 ✓ サイクル関連イベント、サイクルトレイン	・ 市町村：田村、川俣、楢葉、川内、葛尾、新地、飯館 ・ 方向性：里山・百名山、ダム、渓谷、キャンプ場だけでなく、隠れた魅力を専門家とともに掘り起こし・磨き上げ。	・ 市町村：いわき、相馬、南相馬、楢葉、富岡、新地 ・ 方向性：サーフィンやSUP、海水浴場や自然公園、アウトドア施設、現地グルメやアパレルとの連携など	・ 市町村：相馬、南相馬 ・ 方向性：馬、土倉との連携	・ 市町村：広野、富岡 ・ 方向性：市町村の持つ芸術・文化資源との連携

この地域「ならではの」基本理念

- 推進体制の具体化：各テーマの専門家や民間が参画する「**15市町村広域マーケティング機関**」（仮称）の立ち上げを支援（国・福島県、R4年6月公募～）。同機関が市町村と連携し、テーマ毎に広域コンテンツ作りを推進する。
- サブテーマ：①浜の駅・道の駅連携（スタンプラリー）、②企業連携（工場見学、タイアップ商品）、③宿泊施設の経営改善、④フィルムコミッション

VI.市町村独自の取組（タテ）を推進するアクション

①各市町村の担い手を増やす場づくり・運営	②担い手をサポートする仕組みづくり・運営	③専門家とタッグを組んだ魅力の発掘・磨き上げ
・ 参画市町村も設計に参画。※プロジェクト創出の場も参考に具体設計。	・ 資金面：誘客コンテンツ開発等支援事業（R4～、国・県） ・ 取組面：サポートの仕組みを検討（R4～、経産省・県・参画市町村）、R5から支援組織を公募	・ 一部市町村で専門家と先行連携（R4～） ・ R5から専門家連携の仕組み具体化（経産省・県）。参画市町村がこれを活用（R5～）

VII.市町村共通の基盤（デジタル化）に関するアクション

④行政のデジタルトレーニング	⑤行政におけるデジタル化の実行とこれを支える伴走支援	⑥15市町村のデータ基盤の構築・運営
・ デジタル分野の専門家と連携した研修会を設計・運営（R4～、経産省） ・ 参画市町村も参画し、知識を習得	・ 伴走支援の仕組みを検討（R4～、経産省・県・関心市町村） ・ R5から支援組織を公募（経産省・県）。参画市町村が活用。	・ 具体仕組みを専門家と検討（R4～、経産省） ・ R5から構築・運営事業者を公募（経産省・県）。参画市町村はデータ分析等で活用。

※取組期間

2025年度までとするが、地域の実情や取組状況の進捗等を踏まえて、必要に応じて見直しを行う。

※取組期間

④行政のデジタルトレーニング	⑤行政におけるデジタル化の実行とこれを支える伴走支援	⑥15市町村のデータ基盤の構築・運営
・ デジタル分野の専門家と連携した研修会を設計・運営（R4～、経産省） ・ 参画市町村も参画し、知識を習得	・ 伴走支援の仕組みを検討（R4～、経産省・県・関心市町村） ・ R5から支援組織を公募（経産省・県）。参画市町村が活用。	・ 具体仕組みを専門家と検討（R4～、経産省） ・ R5から構築・運営事業者を公募（経産省・県）。参画市町村はデータ分析等で活用。

※取組期間

2025年度までとするが、地域の実情や取組状況の進捗等を踏まえて、必要に応じて見直しを行う。

出典：福島浜通り地域等15市町村の交流人口に向けたアクションプラン（概要版）

4.関連・上位計画の状況

(7)「第2期復興・創生期間」以降の東日本大震災からの復興の基本方針の見直しに向けた主な課題等

令和6（2024）年12月に閣議決定された『「第2期復興・創生期間」以降の東日本大震災からの復興の基本方針の見直しに向けた主な課題等』は、令和8年以降の復興の基本方針の策定に向けた論点が整理されており、復興の関係で交流人口・関係人口の拡大、観光等の施策がどのような方向性で進むかを把握する上で重要な決定であり、今後の議論に注目する必要がある。全体として関連があるところではあるが、交流・関係人口の拡大、観光に関する箇所を整理する。

「第2期復興・創生期間」以降の東日本大震災からの復興の基本方針の見直しに向けた主な課題等

- 「第2期復興・創生期間」の後の次の5年間(令和8年度～12年度)に向けて、東日本大震災からの復興について、現時点における基本姿勢や各分野の取組、復興を支える仕組み、組織の在り方のほか、検討すべき主な課題を明らかにするもの
- 本決定に掲げられた課題について、まずは次の5年間で何としても解決していくという強い決意の下で、総力を挙げて取り組む
- 次の5年間の初年度(令和8年度)の予算編成に反映させるため、さらに具体化を進め、令和7年夏までに基本方針を見直す

各分野の主な取組、課題等

1. 原子力災害被災地域

地域によって復興の段階が様々。それぞれの地域の実情や特殊性を踏まえながら、施策を具体化

- 事故収束(廃炉・汚染水・処理水対策)
 - ・燃料デブリの試験的取出しにより得られた知見を活かした取出し量拡大のための工法の具体化・研究開発、長期的取組への体制構築
- 環境再生に向けた取組
 - ・2045年までの県外最終処分に向け、新たに設置された関係会議の下で除去土壌の再生利用先の創出等を具体化し、国が責任をもって取り組む
- 帰還・移住等の促進、生活再建等
 - ・特定帰還居住区域における除染やインフラ整備等の取組を推進
 - ・帰還困難区域における森林整備をはじめとする活動の再開等を検討
- 福島国際研究教育機構(F-REI)の取組の推進
 - ・理事長のリーダーシップの下で質の高い研究開発を推進
 - ・内外の優秀な研究者を迎えるための生活環境整備
- 福島イノベーション・コースト構想を軸とした産業集積等、事業者再建
 - ・地域の雇用創出・拡大や、経済効果が見込める企業への支援
 - ・衛星・宇宙関連の将来の産業化等に向け、スタートアップ企業等を支援
- 農林漁業者の再建
 - ・市町村が定める地域農業の将来の在り方についての計画など、地域の実情を踏まえた営農再開の推進
 - ・帰還困難区域も含めた森林作業のガイドライン策定等
 - ・計画的な水揚げ回復や養殖生産の取組、担い手確保、スマート水産業の推進
- 風評払拭・リスクコミュニケーションの推進
 - ・食品等の規制に関する対応のほか、農林水産物の流通段階での産地競争力強化などの取組を効果的に推進

2. 地震・津波被災地域

- ハード整備や住まいの再建はほぼ完了、産業や生業に関する取組も進展し成果
 - ・これらに関しては、第2期復興・創生期間の終了までの間にこれまで培ってきたノウハウの被災地方公共団体等への継承や政府全体の施策との連携を促進
- 心のケアや被災した子どもに対する支援等は中長期的取組が必要
 - ・これらの課題については、政府全体の施策の活用を図るとともに、ソフトランディングのため真に必要な範囲で第2期復興・創生期間の後も復興施策による対応も検討

3. 教訓・記憶の後世への継承

- ・第2期復興・創生期間以降においても、各種機会をとらえて、正確な情報を随時わかりやすく発信
- ・国、地方公共団体、民間がそれぞれの役割を果たしながら連携
- ・福島県に設置する国営追悼・祈念施設の整備

復興を支える仕組み等

- 財源等
 - ・次の5年間は本決定に掲げられた課題を解決していく極めて重要な期間であり、今の5年間以上に力強く復興施策を推進していくための財源を確保する。
 - ・令和8年度から5年間の事業規模は1兆円台後半の見込み。
 - ・この中で、福島県については、次の5年間の全体の事業規模が今の5年間を十分に超えるものと見込まれる。
- 自治体支援
 - ・必要な人材確保策に係る支援、引き続き実施される復旧・復興事業について震災復興特別交付税による支援を継続
- 組織
 - ・令和7年夏までに所要の検討
- その他
 - ・基本方針は、次の期間の開始から3年後を目途に必要な見直し

4.関連・上位計画の状況

(7)「第2期復興・創生期間」以降の東日本大震災からの復興の基本方針の見直しに向けた主な課題等

基本的な考え方

- ・地震、津波被害地域：第2期復興・創生期間に復興事業がその役割を全うすることを目指す
- ・原子力災害被災地域：（令和3年度からの）当面10年、本格的な復興・再生に向けた取組を行う

→今回の見直しでは、第2期復興・創生期間の開始後に大きな進展のあった復興施策の現況や、自治体の状況を踏まえて、令和7年度までの第2期復興・創生期間内での復興を見据えた修正を行う。

原子力災害被災地域

③ 帰還・移住等の促進、生活再建等

（さらなる帰還・移住等の促進、生活再建等）

- ・（略）、帰還促進と併せて、移住・定住の促進、二地域居住、交流人口・関係人口の拡大等にも取り組む必要がある。そのため、福島再生加速化交付金（帰還・移住等環境整備）を活用した地方公共団体の自主性に基づく事業への支援や移住・起業する者に対する個人支援を始め、交流人口拡大のための新たな施策を含め様々な施策を活用し、福島県及び原子力災害被災12市町村における取組を支援し、自立的・持続的な交流・関係人口の拡大につなげる。

また、関係者が連携して広域で取り組むべき施策などの移住等の促進施策を強力に進める体制の構築や、交流人口の拡大を消費の拡大のみならず定住人口の増加にも効果的に繋げるための施策も含む対応策等を検討して取りまとめる場の立ち上げなどを通じて、国、県、市町村及び関係機関の連携を強力に推進する。

⑥事業者・農林漁業者の再建

- ・（略）個々の事業者・農業者、域内の創業者等に対してきめ細かな支援を引き続き実施する。また、まちづくりの支援として、分野横断・広域的な観点から、被災地域の経済活性化等の取組を担うまちづくり会社の創立・運営に向けた支援事業等を実施する。
- ・事業者の自立化を見据えつつ、こうした支援を効果的・効率的に進めることは、福島相双復興官民合同チームや商工会等の地元機関が連携した支援が必要であり、これらの支援体制の強化を行う。

⑦ 風評払拭・リスクコミュニケーションの推進

- ・観光については、福島県は「自然、気候、文化、食」といった魅力ある観光資源を有しており、また、「復興の地 ふくしま」を実際に訪れ見てもらうことにより交流人口の拡大のみならず風評の払拭にもつながる効果も期待できる。しかしながら、訪日外国人延べ宿泊者数や教育旅行等の回復に課題が残ることから、観光復興を最大限に進めるため、ホープツーリズムをはじめとした滞在コンテンツの充実・強化、受入環境の整備、プロモーションの強化等を支援し、国内外からの福島県への誘客に取り組む。

出典：「第2期復興・創成期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について（令和6年3月19日 閣議決定）

5.サウンディング調査等の整理

(1)サウンディング等の取組

①基本計画策定作業の前段でのサウンディング等の取組

■事業構想大学院南相馬市プロジェクト研究（令和4年5月～令和5年3月）

・南相馬鹿島S Aのポテンシャル、多様な地域資源を生かした地域活性化の検討、変化が激しい、予測困難な状況において課題解決のための事業構想ができる人材の育成を目的に開催。

・新規事業の開発を目的とした日本で唯一の大学である事業構想大学院大学のカリキュラムのエッセンスを活かし、11か月にわたり研究会を開催。

・最終発表会では、シェアサイクルを活用する「サイクルツーリズム構想」や宿泊機能を提供する「グランピング構想」、温浴体験を提供する「SA直結SPA構想」などが14人の研究員から提案があった。

・翌年には、提案のあったうち、2事業を南相馬鹿島S A周辺で試行的に実施。

【試行実施事業】

①みんなで一緒に乾杯休憩！南相馬鹿島S A ノンアルテラス

②野馬追 防災×車中泊キャンプ

■サウンディング型市場調査（令和5年3月）

南相馬鹿島SA周辺開発に関心を持つ民間事業者の参加を募り、民間事業者のノウハウを最大限に活用できる整備・運営形態等を把握するため実施。

・参加事業者

株式会社クリーン工房（埼玉県）、くるま板金こんの（南相馬市）、竹中工務店東北支店（宮城県）、東亜道路工業株式会社（東京都）、株式会社Huber.（神奈川県）、株式会社日比谷花壇（東京都）、ベックス株式会社（東京都）ほか合計12社

・提案のあった主な施設整備等

サウナ、商業施設、アスレチックエリア、キャンプ、グランピング、インフォメーションスペース＋飲食スペース、旧車の展示、乗馬体験ゾーン、スマート農業ゾーン、ロボット体験ゾーン、レンタサイクル、宿泊温浴施設、地域優良賃貸住宅、アーバンスポーツパーク、花見山プロジェクトとの連携、リモートワークができる施設、遊具広場、散策路、駐車場の増設

（その他の意見）

・建設費用を回収するためには、中央資本への打診も必要。 ・駐車場・動線は根本的に変える必要あり。

・地元にとって当たり前でも、外から見たときに魅力的なコンテンツをどう見つけ出すかが課題。

・街なかまで誘導するのは我々ではハードルが高い。SA周辺をハブとして周辺に人を送り出すイメージか。

②基本計画策定作業の後段でのサウンディング等の取組

■事業者等サウンディング（市外企業・地元）（随時実施）

・事業参画意欲の有無の確認や事業実施の際の関わり方等についての意見交換を行うため、積極的に民間事業者との対話を実施。また、南相馬市に隣接する市町村の魅力を探るため、近隣自治体とも対話を重ねてきた。

【市内事業者】七十七銀行原町支店（金融）、やまさん（青果店）、福相食品（食品加工・製造）、円達（飲食）、鹿島クレーン（土木）、高橋甲冑工房（甲冑製造・修繕）、武田ファーム（農業）、野馬追の里（セデッテかしま運営）、大河内瓦店（商工）、相双緑化土木（土木）、MYSH株式会社（企画）、OWB株式会社（企画）、アグリロード（農業）、松永牛乳（食品加工・製造）、カリフォルニアライディング（乗馬）、HORSE VALUE（乗馬）、若松味噌醤油店（食品加工・製造）、香の蔵（食品加工・製造）、ゆはらファーム（酪農）、松月堂（食品加工・製造）、はらまちユッサ（温浴）、抱月荘（旅館）テトラ・アビエーション株式会社（空飛ぶクルマ）、相馬牧場（羊肉）

【市内各種団体】ASK（農業後継者団体）、相双漁業協同組合女性部（漁業）、鹿島商工会青年部（商工）、原町商工会議所青年部（商工）、icoi（子育て関連コミュニティ）、南相馬市観光協会（観光）

【市外事業者】八州（コンサルタント）、七十七リサーチ&コンサルティング（コンサルタント）、ランドブレイン（コンサルタント）、デロイトトーマツ（コンサルタント）、CCC MK HOLDINGS（コンサルタント）、八千代エンジニアリング（コンサルタント）、乃村工藝社（企画・設計等）、DENZAI（重機建設）、日本国土開発（ディベロッパー）、三菱倉庫（物流・不動産）、日鉄興和不動産（ディベロッパー）、日本総研（コンサルタント）、タカラレーベン（ディベロッパー）、ミライト・ワン（まちづくり・環境）、ジェクトワン（不動産）、三井住友銀行（金融）、第一貨物（物流）、IHI（社会基盤）、日比谷花壇（園芸）、積水ハウス東北支社（住宅・ホテル）、リアライズコーポレーション（物流）、ベックス（コンサルタント）、復興牧場準備室（牧場）、図図倉庫（企画）、田村薬草農場グループ（薬草研究・販売）

【近隣自治体】飯舘村、新地町、相馬市、浪江町

【市内事業者等とのサウンディングで寄せられた意見】

・「130万人」という数字が更に大きくなるような根拠や具体的な事業内容を提示してほしい。 ・体験型の目的地になるような施設をメインにする必要あり。 ・周辺開発で駐車場不足が更に深刻になる不安あり。駐車場の拡張やETC2.0の活用を検討してほしい。 ・現状のセデッテの食堂のほかに調理場所があれば、生産した野菜をその場で美味しく食べてもらうことが可能。 ・市に移住して数年経つが、コンテンツが点在していて面的に拡散していないことが課題。

5.サウンディング調査等の整理

(1)サウンディング等の取組

②基本計画策定作業の後段でのサウンディング等の取組（つづき）

■南相馬鹿島サービスエリア周辺開発検討委員会

・基本計画策定に当たり広く意見を求めるとともに、委員として参加する団体等の本事業への関心・意欲の醸成を目的に設置。

【検討委員（順不同・敬称略）】

区分	氏名	所属
委員長	河村昌美	学校法人先端教育機構事業構想大学院大学
副委員長	伊藤博人	株式会社野馬追の里
委員	武田幸彦	農業後継者団体ASK
委員	荒 昌司	ふくしま未来農業協同組合
委員	北元浩子	相馬双葉漁業協同組合
委員	江袋大輔	鹿島商工会青年部
委員	宮田幸太	原町商工会議所青年部
委員	末永義人	小高商工会
委員	大谷和年	鹿島区行政区長会
委員	後藤 彩	MYSH株式会社
委員	佐川美和子	icoi
委員	平賀公勝	東日本高速道路株式会社
委員	和田智行	OWB株式会社
委員	高前田賢一	株式会社七十七銀行原町支店
委員	青田芳久	一般社団法人原町青年会議所

【検討委員会開催経過】

■第1回（令和6年5月7日）

（協議事項）・南相馬鹿島SA周辺開発の目的 ・検討委員会の役割 ・検討委員会のスケジュール

■第2回（令和6年6月24日）

（協議事項）・ワークショップ（①最近行って印象的だった場所 ②これまで行った場所でまた行きたい or 繰り返し行きたくなる場所）⇒意見を分類・分析する中で、①②を満たす機能として「飲食」「物販」「休憩」「宿泊」の中での特別な体験が今回の開発で必要との整理に至った。

①**印象に残る場所の要素**：誰もが休息や休憩を満喫できる施設【休憩】 その地域だから味わうことのできる飲食【飲食】 地のモノをはじめ種類豊富なショッピングを楽しめる施設【物販】 動物を見たり触れ合ったりすることができる施設【体験】

②**繰り返し行きたくなる場所の要素**：自然と共に、その場所でしか味わえない飲食【飲食】 景色の良い宿泊施設【休憩・体験】 新鮮で多種多様な地のモノを購入できる施設【物販】

■先進地視察（令和6年7月29日-30日）

（目的）各分野・領域における「先行地」を視察・体験することで、事業者または利用者としての参画イメージや開発イメージを膨らませるとともに議論の際にベンチマークとなるイメージを共有した。

（視察先）①**川口ハイウェイオアシス**：既存のPAに隣接する形で後発的に公園や商業設備を整備した本視察地は、本事業における舞台の状況と一致するため、視察予定地として選考した。

特に首都高速道路における休憩施設は、高速道路と比べて一般的ではないため、従来の概念とは異なる状況においてハイウェイオアシスを整備した点や、その中での川口市の名産品の販売などの点を中心に視察。

②**BONUS TRACK**：個人が小商いを始めやすい「環境」を生み出すことで、新築の商店街を作ることがコンセプトである本視察地は、本事業において市がイメージする、地元事業者が主体となって他にはない新しいまちをつくるといった点などにおいて共通点が多いため、視察予定地として選考した。

具体的な「環境」の内容として、居住可能であること・活発なテナント改編の可能性・緑の多さ等が挙げられるため、この点を中心に視察。

5.サウンディング調査等の整理

(1)サウンディング等の取組

②基本計画策定作業の後段でのサウンディング等の取組（つづき）

【検討委員会開催経過】（つづき）

■第3回（令和6年10月1日）

（協議事項）・コンセプト案、開発の方向性及びコンテンツ案に関する説明・ワークショップ⇒今回の開発において、①「テーマパーク的な開発」と②「牧歌的な開発」のどちらが相応しいかについて議論。

（主な意見）①：・収益性の高い施設が必要。・リピートしない（期待できない）施設はつくらない。②：・ただ広くて何もない野原もコンテンツになる。・他のSA等と比較したときに、①はありきたりなイメージ。

■第4回（令和6年12月16日）

（協議事項）・計画内容に関して確認しておきたいこと・疑問点・本開発事業に合いそうな南相馬市内の“人”“サービス”“商品”

（主な意見）・チャレンジショップの場所としての活用やファミリー参加型のワークショップの開催などの要素は必要。・施設が増えるだけでよいのか。・原町商工会議所としても協力していきたい。・今の案では、何を目玉として人を呼び込もうとしているのか、更に深く考える必要がある。・セデッテかしまの増築も視野に入れた対応が必要。市にある馬、ロボット、宇宙産業など、訪れた人に見てもらえるような表示などの検討必要。・売り場の拡大やブランディング・特産化等、生産者の収入拡大に繋がる事業とすべき。・化石発掘はコンテンツとなる。少年少女化石探検隊の実施も魅力につながる。・コンビニが設置されれば、地元住民の利便性向上にもつながる。・セデッテのコミュニティスペースのように、ちょっとした打合せができる場所は引き続き必要。・国道6号や街なかからのアクセスは向上させる必要がある。・サイクリングロードとの連携も考えるべき。・かつての人気店で現在は閉店した店舗のメニューを引き継いでの販売。・通年で“火伏まつり”をPR。植樹に加え、里山づくりへの住民参加。・ドローン体験ゾーンの設置。・小店舗複数で実演販売するなど、物販や飲食機能の強化がまた来るきっかけとなる。・ターゲットの更なる掘り下げが必要。・南相馬市は環境省から“脱炭素推進重点対策実施地域”として指定。庁内連携により施策効果の向上、財源確保が見込めるのでは。・まちとの関係は更に磨く必要がある。物足りない。

■第5回（令和7年2月17日）

（協議事項）・計画内容に関して確認しておきたいこと・疑問点



5.サウンディング調査等の整理

(1)サウンディング等の取組

②基本計画策定作業の後段でのサウンディング等の取組（つづき）

■仙台圏の子どもの遊び場調査

令和3年に行われた「仙台市遊びの環境に関する調査・研究業務」によると、子どもの遊び場として(仙台)市外の大規模な公園が4位にランクインしている(左図)。保護者が市外の大規模な公園を遊び場を選択する上で気に入っている理由としては「広さ」「内容」「駐車場」「料金」「安全」が高頻度での回答に選ばれている。

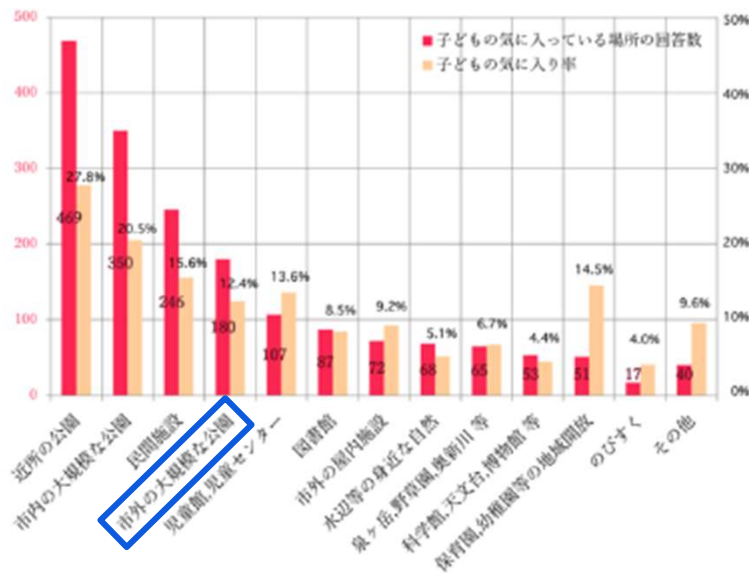
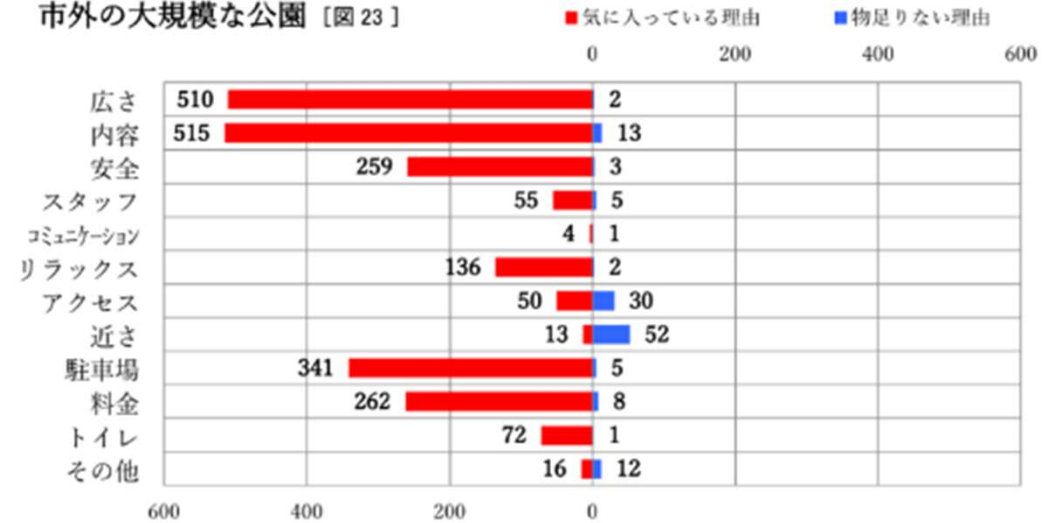


図19 子どもの気に入っている場所〔1位〕の回答数と気に入り率（図6、表39参照）

市外の大規模な公園【図23】



令和3年3月 仙台市遊びの環境に関する調査・研究業務<報告書>より抜粋

同報告書のアンケート結果では仙台市民に多く利用されている仙台市外の大規模公園は、国営みちのく杜の湖畔公園(川崎町:24km)、県立の加瀬沼公園(利府町:13km)、ダイケンパーク岩沼海浜緑地(岩沼市:23km)、宮城県県民の森・青少年の森(利府町他:12km)、ひがしねあそびあランド(山形県東根市:50km)、名取市サイクルスポーツセンター(名取市:17km)、セントメリースキー場(川崎町:48km)、菖蒲田海水浴場(七ヶ浜町:19km)、こじゅうろうキッズランド(白石市:42km)、さくらんぼタントクルセンター(山形県東根市:52km)、子育て未来館げんキッズ(山形県天童市:74km)が頻出した遊び場選択先として挙げられている。

6.サービスエリア集客見込み

利用者の将来推計

[利用者の将来推計]

項目	現状値	開発後	開発後利用者数の考え方
年間利用者数(人)	約150万人 (令和5年度実績)	約250万人	・R4利用実態調査より、現状値の約150万人の内訳は、高速道路からの利用が約120万人・一般道路からの利用が約30万人。(解説①) ・常磐道 南相馬IC～相馬IC間の4車線化により、交通量が約10%増加すると予測される(解説②)ことから、高速道路からの利用者は、現在の約120万人から約132万人に増加すると推定。 ・施設の新設によるSAへの立寄率が、20%⇒29%に上昇すると予測される(解説③)ことから、高速道路からの利用者は、上記の約132万人から約191万人に増加すると推定。 ・施設の新設による一般道路からの利用が、現在の約30万人から約59万人に増加すると推定。(解説④)

(解説①)

令和4年度に実施した「南相馬鹿島サービスエリア利用実態調査結果」によれば、各調査日におけるセデッテかしまの利用者数は次の通りであった。

- ・令和4年11月26日(土) 高速道路からの利用者：2,888人(82.8%)
一般道路からの利用者：600人(17.2%)
- ・令和4年11月30日(水) 高速道路からの利用者：1,474人(76.4%)
一般道路からの利用者：456人(23.6%)

上記の結果から、高速道路からの利用者が約80%・一般道路からの利用者が約20%であることが分かるため、令和5年度実績の利用者数である約150万人のうち、高速道路からの利用者が約120万人・一般道路からの利用者が約30万人と推定できる。

(解説②)

東日本高速道路株式会社の資料「常磐自動車道の路線概要」によると、常磐道 山元IC～岩沼IC間における暫定2車線時の交通量は約16,300台/日であったのに対して、4車線化後の交通量は約18,300台/日であり、約12.3%増加していることが分かる。

今後南相馬鹿島SAが位置する南相馬IC～相馬IC間においても4車線化が行われた場合、同様の変化が生じると考えられることから、交通量が10%増加すると推定できる。

なお、全線4車線化後については、東北道からの交通シフト等の影響により大幅な交通量の増加が期待されるが、現時点でならはSIC～浪江IC間は優先整備区間に指定されておらず、事業化への目途が立っていないため、今回の推計からは除外している。

(解説③)

【南相馬鹿島SAの立寄率】

国土交通省により実施された「令和3年交通量センサス」及び令和4年度に実施した「南相馬鹿島サービスエリア利用実態調査結果」によれば、南相馬IC～相馬IC間における区間交通量及び南相馬鹿島SAへの立寄率(区間交通量に対するSA流入車両の割合)は次の通りであった。

- ・区間交通量 11,962台(R3交通量センサス・平日)
- ・SA流入車両 2,441台(南相馬鹿島サービスエリア利用実態調査・平日)
- ・SA立寄率 約20% $(\text{区間交通量} \div \text{SA流入台数} \times 100)$

【車両1台あたりの乗車人数】

「南相馬鹿島サービスエリア利用実態調査」によれば、バスを除くSA流入車両に乗車していた人数は3,197人(平日)であった。またSAに流入したバスの台数は21台であり、大型バスの最大定員は約50人であることから、SA利用者数の最大値は4,247人(平日)であると推計される。したがって、車両1台あたりの平均乗車人数(最大値)は、約1.74人/台と算出できる。

【他SAPAにおける立寄率】

中日本高速道路株式会社の資料「ネクスコ中日本MEDIA GUIDE2019」によると、利用者数が公表されているSAのうち、区間交通量が4万台/日以下の区間に立地する施設の実績は、次頁【表1】の通りであった。また、車両1台あたりの平均乗車人数(最大値)が約1.74人/台である調査結果を用いることで、利用者数からSA流入車両の台数を推計することが可能なため、各SAにおける立寄率について算出を行った。なお、区間交通量については、国土交通省により実施された「令和3年交通量センサス」の結果を利用している。

6.サービスエリア集客見込み

【表1】

SA	利用者数 (実績・人)	流入車両 (推計・台)	区間交通量 (実績・台)	立寄率 (%)
関・長良川	14,000	8,046	16,608	48.4
恵那峡	18,000	10,345	25,687	40.3
富士川	20,000	11,494	28,648	40.1
賤ヶ岳	11,000	6,322	16,580	38.1
南条	15,000	8,621	23,758	36.3
双葉	17,000	9,770	27,703	35.3
駒ヶ岳	14,000	8,046	25,981	31.0
諏訪湖	16,000	9,195	31,000	29.7
養老	17,000	9,770	33,670	29.0
尼御前	11,000	6,322	22,166	28.5
牧之原	16,000	9,195	32,977	27.9
多賀	18,000	10,345	37,401	27.7
有磯海	8,000	4,598	17,904	25.7
小矢部川	12,000	6,897	27,754	24.8
浜名湖	12,000	6,897	27,874	24.7
梓川	14,000	8,046	32,938	24.4
安濃	10,000	5,747	26,564	21.6

上記の結果から、立寄率の平均値は31.4%・中央値は29.0%であり、施設の新設によって立寄率を20%から29%に上昇させることは十分可能であると推察できる。

また、立寄率が40%を超えるSAにおいては、その要因として下記の理由が考えられる。

- ・ 広大な駐車場
- ・ 24時間営業の施設
- ・ 地域名産品の存在
- ・ コインシャワー及びコインランドリーの併設
- ・ エリアコンシェルジェの配置
- ・ 景観やグルメなど、その場でしか体験できないコンテンツ

(解説④)

表2は、東北地方の「道の駅」において、令和5年の利用者数が100万人を超えた施設の一覧であり、実際の利用者数及び施設に接続する道路の区間交通量を記載している。また、立寄率に近い意味合いの値として、立寄指標も併記している。(施設毎の利用者数を公表していない岩手県を除く)

【表2】

道の駅	年間利用者数 (実績・人)	区間交通量 (実績・台)	立寄指標
あ・ら・伊達な道の駅(宮城)	2,912,932	11,900	67.1
道の駅鳥海(山形)	1,893,400	10,487	49.5
道の駅伊達の郷 りょうぜん(福島)	1,454,163	11,994	33.2
道の駅なみおか(青森)	1,887,462	16,505	31.3
道の駅猪苗代(福島)	1,068,842	10,434	28.1
道の駅上品の郷(宮城)	1,398,397	14,087	27.2
道の駅あいづ 湯川・会津坂下(福島)	1,155,936	11,914	26.6
道の駅ふくしま(福島)	1,588,539	16,983	25.6
道の駅米沢(山形)	1,711,900	21,619	21.7
道の駅国見 あつかしの郷(福島)	1,503,000	24,549	16.8
道の駅あきた港(秋田)	1,142,777	20,656	15.2

※立寄指標...年間利用者数÷年間区間交通量(区間交通量×365日)×100
指標の数値が高いほど、交通量に対する年間利用者数が多いと言えるため、立寄率が高く魅力的な施設であると推察できる。

セデッテかしまの一般道路からの年間利用者数は約30万人であり、接続する道路である県道34号の区間交通量は5,962台である。このことから、立寄指数は13.8となる。その一方で、上記の表における立寄指数の平均値は31.1・中央値は27.2であり、施設の新設によって立寄り指数を13.8から27.2に上昇させることは十分可能であると推察できる。この場合、セデッテかしまの一般道路からの年間利用者は約30万人から約59万人に増加する。

7.事業コンセプト

(1)「伝えたくなる」がたくさんあるSA

Q.地域にある魅力が来訪者に伝えきれていない。

A.「伝えたくなる」がたくさんあるSA

【もったいない】

南相馬市とその周辺地域は、美しい自然や豊かな文化、伝統行事など多くの魅力を有している。しかし、それらの価値を広く伝えるための情報発信やPRが十分でない状況にある。例えば、相馬野馬追は全国的に一定の知名度があるが、野馬追以外の地域資源や日常の魅力についての情報訴求は限定的である。また、この地域には震災原発事故を力強く乗り越えた人々や事業者の取組み・商品、復興の過程で新たに生まれた産業や文化があるものの、伝える、伝わる仕組みづくりについては、まだまだやれる余地がある。この地域本来の魅力が十分に認識されていない現状は大きな損失と言える。まさに「もったいない」。

地域には主役となりうる大きな魅力・個性がたくさんあり、新たに生まれている。

野馬追・馬文化



ロボット



ロケット



サーフィン



恐竜



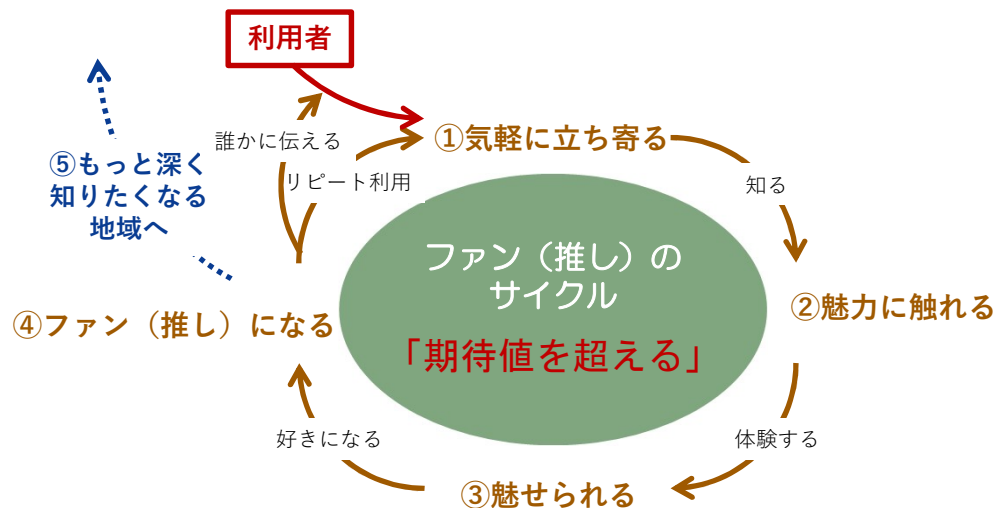
個性的で魅力のあるこだわりの商品が生産されている



期待値を超える

【ファン（推し）になるサイクルを回す】

地域にある魅力や個性を活かして、気軽にSAに立ち寄った人が、地域を知って、体験・体感して、誰かに伝える流れを構築する。



【期待値を超える意味的価値の提供】

ファンを作る「推し」の流れを創出する活動は、様々な自治体でも行われている。その流れを作るためには、例えば職人の誠実な仕事ぶりや頑張りを知ってもらう、期待を良い意味で裏切る体験を提供するなどして、意味的価値を見いだしてもらえるか否かが重要となる。

【多様なタッチポイントの設定】

本案件では、南相馬やその周辺地域のファン（推し）を醸成するため、常磐道・南相馬鹿島SAに地域との様々な形でのタッチポイントを幅広く設けることで、訪れた利用者にこの地域の様々な魅力を届ける。

【滞在時間の延長】

ホテル・温浴、ゆっくり楽しめるレストランやカフェ、野馬追伝承施設により滞在時間を延ばすための居場所をつくることで、年間250万人が地域のコンテンツにどっぷり浸かり、ファンとなり、南相馬市とその周辺地域を推し始め、この地域の魅力を知り合いに伝えたくなる、そして実際に伝えるサイクルを創り出すことをゴールとする。

【地域を代表する拠点】

南相馬鹿島SAは、原発被災地の北の玄関（ゲートウェイ）と言える立地にあり、常磐道の福島県内唯一のSAであり、県内でも有数の集客力のある施設である。南相馬市の拠点という位置づけに留まらず、周辺地域を含んだエリアを代表する施設として整備運営することでこの地域の復興・活性化に貢献できるだけでなく、SA自体の魅力・価値が向上する。

7.事業コンセプト

(3)まちをつくるSA

Q.SAが持つ集客力を地域として活かすことができていない。

A. まちをつくるSA

【SAの本来機能についての高い実績と評価】

南相馬鹿島SA（セデッテかしま）はSAの本来の機能である休憩・リフレッシュの場の提供、食事や買い物の場の提供等について実績を積み上げるとともに高い評価を得ている。清潔で開放的気分を感じさせるトイレ、ゆっくりと寛げるコミュニティスペースやテラスは利用者に好評である。また、「プロが選ぶ観光・食事・土産物施設100選」を6年連続で受賞している。

【SAにはまだまだ可能性があるのではないかな】

しかしながら、年間130万人以上の利用者数を集めている集客力やポテンシャルがまちに十分な影響を及ぼしているかと考えると、まだまだできる事はあるのではないかな。SAのポテンシャルを活かし、地域に対するSAの可能性を拡張する方策があるのではないかな。まちの抱える課題に資する存在になり得るのではないかな。この問いに向き合ったきた。

【これまでにない新しいSAの概念「まちをつくるSA」】

市が主導して整備を進めることができるという特徴を生かし、既存のSAの枠にとらわれない「まちをつくるSA」という、現状存在しない新しい概念を事業コンセプトの一つに据える。

従来のSA

休憩とリフレッシュ
食事と買い物
情報提供
給油

本件による新しいSA

休憩とリフレッシュ
食事と買い物
情報提供
給油

価値をリレーし、循環を生む

まちをつくる

- ①まちに人を送り出す
- ②まちを再生する
- ③まちと人材をシェアする
- ④まちづくりの資金を生み出す
- ⑤まちの伝統を継承する

価値のリレーと循環

【①まちに人を送り出す】

一部の道の駅では大型の案内マップを掲示して地域の観光地やおすすめスポットを見える化するなどの取組みが行われている。また、観光協会やその出先機関を配置するなどして対面で利用者に案内をしている施設もある。本案件では、これらに加え実際のミニツアー等を開催企画・実施する。野馬追やロケット発射見学ツアー、他にも例えば発酵、農などをテーマにしたツアー、恐竜発掘ツアー、ホープツーリズム、アドベンチャートラベル、サイクリングの拠点としてサービスを提供。コンテンツに磨きがかかり、それがSAの価値になる。

KADODE OOIGAWA (静岡県)



まちに送り出す仕掛け

見せる
観光案内マップ

伝える
コンシェルジュ

案内する
お茶の体験ツアー

りんりんスクエア土浦（茨城県）

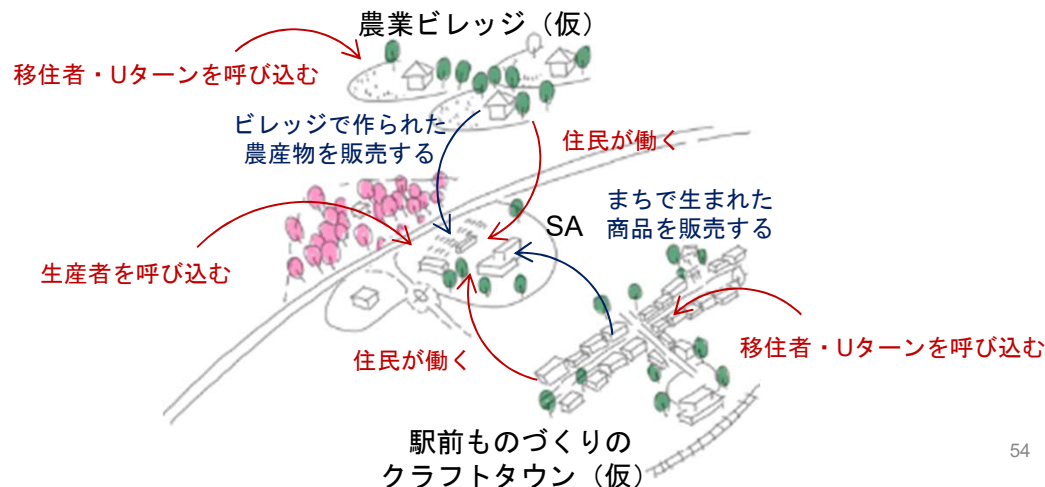


サイクリングコンシェルジュ サイクリングコンシェルジュ

りんりんスクエア土浦は、土浦駅直結のサイクリング拠点で、霞ヶ浦の周回道路や鉄道の廃線敷きなど魅力的なルートを案内している。

【②まちを再生する】

市街地において空き家や空き店舗が目立つようになっている。農村部においても然り。SAに大きな市場があることをフックに、例えば駅前ものづくりのクラフトタウン(仮)、農業ビレッジ(仮)が形成されるよう生産者や移住者を呼び込む。売り場の一部を生産者等に提供したり、レストランで生産された農産物を利用することなどが想定される。また、Uターンや移住施策を進める際は、働く場所が課題となることが散見されるが、SAが魅力的な働き場所になることでその課題を解決する。特徴を持ったまちの再生やそのストーリーはSAの魅力や価値を高め、市内の既存生産者にとってもプラスとなる。



7.事業コンセプト

(3)まちをつくるSA

【②まちを再生する】（つづき）

石見銀山企業とまちのつながり（島根県）



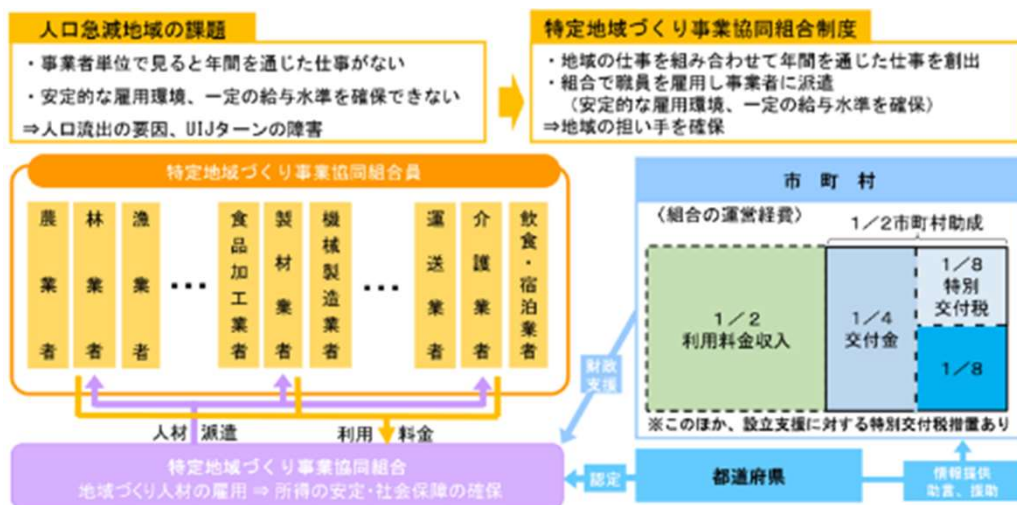
地元企業である群言堂や中村プレイスは、古民家再生や生活観光を推進し、この街での生活を見せることで、その暮らしに共感した来訪者が移住するという流れができた。

さらに、両社がまちづくりとは異なる本業を持っていることにより、地域の雇用の受け皿にもなっている。

【③まちと人材をシェアする】

過疎化や高齢化の進展に伴って人材の確保が難しくなっている。また、商工会等では人手が足りずイベントの開催などに支障が出始めている。特定地域づくり事業協同組合の制度を活用し、地域の事業所、農家、商工会等と人材をシェアする。SA側としても人件費や事務費等の負担軽減されるだけでなく、新商品や新たなツアーやイベント等の企画のためのきっかけづくりにもなる。

特定地域づくり事業協同組合制度



都田エリア周辺まちづくり（静岡県）



地元の建設会社である都田建設が中心となったまちづくりで、古民家や駅の再生を北欧をテーマとして行い、まちの再生を通して、ライフスタイルを提案している。

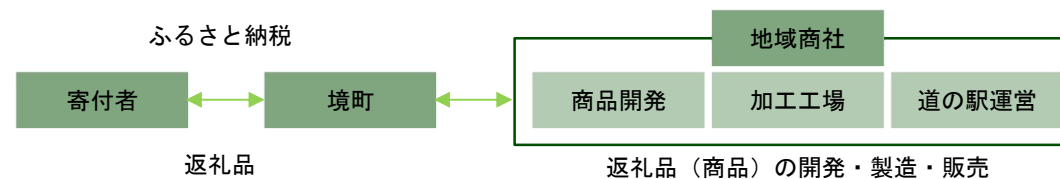
こういった取り組みは、都田建設の本業である建設業にも良い影響を与えている。

価値のリレーと循環

【④まちづくりの資金を生み出す】

地域資源を活かしたふるさと納税向けの返礼品の開発により、まちづくりのための資金を市にもたらす。SA側にとってもお土産生産の稼働率や売り上げの向上にもつながる。

参考事例：茨城県境町のふるさと納税・地域商社の取り組み



返礼品の開発、製造、販売を目的として、特産品の研究センターや工場、カフェなどを建設し、収益を得ることによって、移住や子育て支援など市の施策へ再投資を行っている。



【⑤まちの伝統を継承する】

野馬追の伝承施設を設置することにより、初陣騎馬武者の増加や馬具、武具等の修繕の技術の継承を目指す。また、利用者や移住者との関係が深いSAがあることで、例えばユネスコの無形文化遺産「大償神楽(花巻市)」が通い神楽として演者を確保しているように、伝統芸能を守る取組についても取組みの可能性がでてくる。全国で地域の伝統文化の継承が難しくなっていく中で、観光資源となるだけでなく地域の財産となる。

大償神楽(花巻市)

集落外の演者を受け入れることで集落内外の演者にコミュニティができ、伝統の継承と関係人口の増加につながる。



大償神楽の伝統を守る通い神楽(花巻市)

大蛇神楽（南相馬市鹿島区）